

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者、大学名

- 学校法人日本赤十字学園：日本赤十字北海道看護大学
- 学校法人日本赤十字学園：日本赤十字秋田看護大学
- 学校法人日本赤十字学園：日本赤十字豊田看護大学
- 学校法人日本赤十字学園：日本赤十字広島看護大学
- 学校法人日本赤十字学園：日本赤十字九州国際看護大学

(2) 大学の位置

- (日本赤十字北海道看護大学)
〒090-0011
北海道北見市曙町664番地の1
- (日本赤十字秋田看護大学)
〒010-1493
秋田県秋田市上北手猿田字苗代沢17番地3
- (日本赤十字豊田看護大学)
〒471-8565
愛知県豊田市白山町七曲12番33
- (日本赤十字広島看護大学)
〒738-0052
広島県廿日市市阿品台東1番2号
- (日本赤十字九州国際看護大学)
〒811-4157
福岡県宗像市アスティ1丁目1番地

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

大学名	職名	設置時	変更状況	備考
日本赤十字北海道看護大学	理事長	オオツカ ヨシハル 大塚 義治 (平成17年4月)	—	—
	学長	カワグチ テルコ 河口 てる子 (平成23年4月)	—	—
	研究科長	カワグチ テルコ 河口 てる子 (平成28年4月)	ニシカタ クミコ 西片 久美子 (平成28年4月)	
日本赤十字秋田看護大学	理事長	オオツカ ヨシハル 大塚 義治 (平成17年4月)	—	—
	学長	アンドウ ヒロコ 安藤 広子 (平成25年4月)	—	—
	研究科長	フジイ ヒロヒデ 藤井 博英 (平成28年4月)	ヤマダ ノリコ 山田 典子 (平成29年4月)	
日本赤十字豊田看護大学	理事長	オオツカ ヨシハル 大塚 義治 (平成17年4月)	—	—
	学長	アンドウ ツネサブロウ 安藤 恒三郎 (平成24年4月)	カマクラ ヤヨイ 鎌倉 やよい (平成28年4月)	
	研究科長	ニシカタ クミコ 西片 久美子 (平成28年4月)	ヤマダ サトコ 山田 聡子 (平成28年4月)	

日本赤十字 広島看護 大学	理 事 長	オオツカ ヨシハル 大塚 義治 (平成17年4月)	—	—
	学 長	コヤマ マリコ 小山 真理子 (平成24年4月)		—
	研究科長	マサキ ナオコ 眞崎 直子 (平成28年4月)	ヒヤクタ タケシ 百田 武司 (平成28年4月)	
日本赤十字 九州国 際看護大 学	理 事 長	オオツカ ヨシハル 大塚 義治 (平成17年4月)	—	—
	学 長	ウラタ キクコ 浦田 喜久子 (平成25年4月)	タムラ ヤヨイ 田村 やよひ (平成28年4月)	
	研究科長	ホンダ タミエ 本田 多美枝 (平成28年4月)	—	—

(注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を
() 書きで記入してください。

(例) 平成29年度に報告済の内容 → (29)

平成30年度に報告する内容 → (30)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載（昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正）するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部/学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
 ・ 様式は, 平成27年度開設の4年制の学科の場合(平成30年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象研究科等の名称等

大学名	調査対象研究科等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
			修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
日本赤十字北海道看護大学	看護学研究科 共同看護学専攻 博士(看護学)	保健衛生学関係 (看護学関係)	3年	2人	年次人 —	6人	
日本赤十字秋田看護大学	看護学研究科 共同看護学専攻 博士(看護学)	保健衛生学関係 (看護学関係)	3年	2人	年次人 —	6人	
日本赤十字豊田看護大学	看護学研究科 共同看護学専攻 博士(看護学)	保健衛生学関係 (看護学関係)	3年	2人	年次人 —	6人	
日本赤十字広島看護大学	看護学研究科 共同看護学専攻 博士(看護学)	保健衛生学関係 (看護学関係)	3年	2人	年次人 —	6人	
日本赤十字九州国際看護大学	看護学研究科 共同看護学専攻 博士(看護学)	保健衛生学関係 (看護学関係)	3年	2人	年次人 —	6人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前の人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象研究科等の入学者の状況

大学名	報告年度 区分	平成28年度		平成29年度		平成30年度		平均入学定員 超過率	備考
		春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
日本赤十字北海道看護大学	A 入学定員	2人 (—) [—]	—人 (—) [—]	2人 (—) [—]	—人 (—) [—]	2人 (—) [—]	—人 (—) [—]	1.50倍	
	志願者数	3 (—) [—]	— (—) [—]	5 (—) [—]	— (—) [—]	3 (—) [—]	— (—) [—]		
	受験者数	3 (—) [—]	— (—) [—]	5 (—) [—]	— (—) [—]	3 (—) [—]	— (—) [—]		
	合格者数	3 (—) [—]	— (—) [—]	4 (—) [—]	— (—) [—]	2 (—) [—]	— (—) [—]		
	B 入学者数	3 (—) [—]	— (—) [—]	4 (—) [—]	— (—) [—]	2 (—) [—]	— (—) [—]		
	入学定員超過率 B/A	1.50		2.00		1.00			

大学名	報告年度 区分	平成28年度		平成29年度		平成30年度		平均入学定員 超過率	備考
		春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
		2人	1人	2人	1人	2人	1人		
日本赤十字 秋田看護大 学	A 入学定員	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	1.16倍	
	志願者数	3 (-) [-]	- (-) [-]	3 (-) [-]	- (-) [-]	2 (-) [-]	- (-) [-]		
	受験者数	3 (-) [-]	- (-) [-]	3 (-) [-]	- (-) [-]	2 (-) [-]	- (-) [-]		
	合格者数	3 (-) [-]	- (-) [-]	2 (-) [-]	- (-) [-]	2 (-) [-]	- (-) [-]		
	B 入学者数	3 (-) [-]	- (-) [-]	2 (-) [-]	- (-) [-]	2 (-) [-]	- (-) [-]		
	入学定員超過率 B/A	1.50		1.00		1.00			
日本赤十字 豊田看護大 学	A 入学定員	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	1.16倍	
	志願者数	2 (-) [-]	- (-) [-]	3 (-) [-]	- (-) [-]	2 (-) [-]	- (-) [-]		
	受験者数	2 (-) [-]	- (-) [-]	3 (-) [-]	- (-) [-]	2 (-) [-]	- (-) [-]		
	合格者数	2 (-) [-]	- (-) [-]	3 (-) [-]	- (-) [-]	2 (-) [-]	- (-) [-]		
	B 入学者数	2 (-) [-]	- (-) [-]	3 (-) [-]	- (-) [-]	2 (-) [-]	- (-) [-]		
	入学定員超過率 B/A	1.00		1.50		1.00			
日本赤十字 広島看護大 学	A 入学定員	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	1.50倍	
	志願者数	4 (-) [-]	- (-) [-]	6 (-) [-]	- (-) [-]	2 (-) [-]	- (-) [-]		
	受験者数	4 (-) [-]	- (-) [-]	6 (-) [-]	- (-) [-]	2 (-) [-]	- (-) [-]		
	合格者数	4 (-) [-]	- (-) [-]	3 (-) [-]	- (-) [-]	2 (-) [-]	- (-) [-]		
	B 入学者数	4 (-) [-]	- (-) [-]	3 (-) [-]	- (-) [-]	2 (-) [-]	- (-) [-]		
	入学定員超過率 B/A	2.00		1.50		1.00			

大学名	報告年度 区分	平成28年度		平成29年度		平成30年度		平均入学定員 超過率	備考
		春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
日本赤十字 九州国際看護大学	A 入学定員	2人 () []	—人 () []	2人 () []	—人 () []	2人 () []	—人 () []	1.00 倍	
	志願者数	2 () []	— () []	2 () []	— () []	2 () []	— () []		
	受験者数	2 () []	— () []	2 () []	— () []	2 () []	— () []		
	合格者数	2 () []	— () []	2 () []	— () []	2 () []	— () []		
	B 入学者数	2 () []	— () []	2 () []	— () []	2 () []	— () []		
	入学定員超過率 B/A	1.00		1.00		1.00			

- (注) ・ 数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ () 内には、編入学の状況について**外数**で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ [] 内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 転入学生は記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「入学定員超過率」については、**各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出**してください。なお、計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで**記入してください。
 - ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、**計算の際は「入学定員超過率」と同様**にしてください。

(5) - ③ 調査対象研究科等の在学者の状況

大学名	対象年度 学 年	平成28年度		平成29年度		平成30年度		備 考
		春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
日本赤十字 北海道看護 大学	1年次	3 [-] (-)	— [-] (-)	4 [-] (-)	— [-] (-)	2 [-] (-)	— [-] (-)	
	2年次	— [-] (-)	— [-] (-)	3 [-] (-)	— [-] (-)	4 [-] (-)	— [-] (-)	
	3年次	/		— [-] (-)	— [-] (-)	3 [-] (-)	— [-] (-)	
	4年次			/		— [-] (-)	— [-] (-)	
	計	3 [-] (-)				7 [-] (-)		9 [-] (-)
日本赤十字 秋田看護大 学	1年次	3 [-] (-)	— [-] (-)	2 [-] (-)	— [-] (-)	2 [-] (-)	— [-] (-)	
	2年次	— [-] (-)	— [-] (-)	3 [-] (-)	— [-] (-)	2 [-] (-)	— [-] (-)	
	3年次	/		— [-] (-)	— [-] (-)	3 [-] (-)	— [-] (-)	
	4年次			/		— [-] (-)	— [-] (-)	
	計	3 [-] (-)				5 [-] (-)		7 [-] (-)
日本赤十字 豊田看護大 学	1年次	2 [-] (-)	— [-] (-)	3 [-] (-)	— [-] (-)	2 [-] (-)	— [-] (-)	
	2年次	— [-] (-)	— [-] (-)	2 [-] (-)	— [-] (-)	3 [-] (-)	— [-] (-)	
	3年次	/		— [-] (-)	— [-] (-)	2 [-] (-)	— [-] (-)	
	4年次			/		— [-] (-)	— [-] (-)	
	計	2 [-] (-)				5 [-] (-)		7 [-] (-)

大学名	対象年度 学 年	平成28年度		平成29年度		平成30年度		備 考
		春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
日本赤十字 広島看護大 学	1年次		— [—] (—)	3 [—] (—)	— [—] (—)	2 [—] (—)	— [—] (—)	
	2年次	— [—] (—)	— [—] (—)	4 [—] (—)	— [—] (—)	3 [—] (—)	— [—] (—)	
	3年次	/		— [—] (—)	— [—] (—)	4 [—] (—)	— [—] (—)	
	4年次			/		— [—] (—)	— [—] (—)	
	計					7 [—] (—)	9 [—] (—)	
日本赤十字 九州国際看 護大学	1年次	2 [—] (—)	[—] [—] (—)	2 [—] (—)	[—] [—] (—)	2 [—] (—)	[—] [—] (—)	
	2年次	[—] [—] (—)	[—] [—] (—)	2 [—] (—)	[—] [—] (—)	2 [—] (—)	[—] [—] (—)	
	3年次	/		[—] [—] (—)	[—] [—] (—)	2 [—] (—)	[—] [—] (—)	
	4年次			/		— [—] (—)	— [—] (—)	
	計	2 [—] (—)	4 [—] (—)			6 [—] (—)		

- (注) ・ 数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

大学名	区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由	
				入学した年度	退学者数	退学者数のうち留学生数		
日本赤十字 北海道看護 大学	平成28年度	3人	0人	平成27年度	人	人		
				平成28年度	0人	-	人	
	平成29年度	7人	0人	平成27年度	人	人		
				平成28年度	0人	-	人	
				平成29年度	0人	-	人	
	平成30年度	9人	0人	平成27年度	人	人		
				平成28年度	0人	-	人	
				平成29年度	0人	-	人	
				平成30年度	0人	-	人	
	合計	19人	0人					
日本赤十字 秋田看護大 学	平成28年度	3人	0人	平成27年度	人	人		
				平成28年度	0人	-	人	
	平成29年度	5人	0人	平成27年度	人	人		
				平成28年度	0人	-	人	
				平成29年度	0人	-	人	
	平成30年度	7人	0人	平成27年度	人	人		
				平成28年度	0人	-	人	
				平成29年度	0人	-	人	
				平成30年度	0人	-	人	
	合計	15人	0人					
日本赤十字 豊田看護大 学	平成28年度	2人	0人	平成27年度	人	人		
				平成28年度	0人	-	人	
	平成29年度	5人	0人	平成27年度	人	人		
				平成28年度	0人	-	人	
				平成29年度	0人	-	人	
	平成30年度	7人	0人	平成27年度	人	人		
				平成28年度	0人	-	人	
				平成29年度	0人	-	人	
				平成30年度	0人	-	人	
	合計	14人	0人					

大学名	区分		在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由
	対象年度	内訳						
		入学した年度			退学者数	退学者数のうち留学生数		
日本赤十字 広島看護大学	平成28年度	4人	0人	平成27年度	人	人		
				平成28年度	0人	- 人		
	平成29年度	3人	0人	平成27年度	人	人		
				平成28年度	0人	- 人		
				平成29年度	0人	- 人		
	平成30年度	2人	0人	平成27年度	人	人		
				平成28年度	0人	- 人		
				平成29年度	0人	- 人		
				平成30年度	0人	- 人		
合計		9人	0人					
大学名	区分		在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由
	対象年度	内訳						
		入学した年度			退学者数	退学者数のうち留学生数		
日本赤十字 九州国際看護大学	平成28年度	2人	0人	平成27年度	人	人		
				平成28年度	0人	- 人		
	平成29年度	2人	0人	平成27年度	人	人		
				平成28年度	0人	- 人		
				平成29年度	0人	- 人		
	平成30年度	2人	0人	平成27年度	人	人		
				平成28年度	0人	- 人		
				平成29年度	0人	- 人		
				平成30年度	0人	- 人		
合計		6人	0人					

- (注)・数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・各年度の在学者数については、該当年度に在学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
 - ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - ・在学者数や退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 - ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
 - ・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

<日本赤十字北海道看護大学>

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{3} = \boxed{0} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{7} = \boxed{0} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{9} = \boxed{0} \%$$

<日本赤十字秋田看護大学>

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{3} = \boxed{0} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{5} = \boxed{0} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{7} = \boxed{0} \%$$

<日本赤十字豊田看護大学>

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{2} = \boxed{0} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{5} = \boxed{0} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{7} = \boxed{0} \%$$

<日本赤十字広島看護大学>

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{4} = \boxed{0} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{3} = \boxed{0} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{2} = \boxed{0} \%$$

<日本赤十字九州国際看護大学>

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{2} = \boxed{0} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{2} = \boxed{0} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{2} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	構成大学	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
				必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通科目	看護理論	1後 2後	日本赤十字 豊田看護大 学	1								1
	赤十字人道援助論	1後 2後	日本赤十字 秋田看護大 学	1								1
	科学的研究方法論Ⅰ (実験研究)	1前 2前	日本赤十字 北海道看護 大学 日本赤十字 九州国際 種大学	1			2	1	1			
	科学的研究方法論Ⅱ (臨床介入研究)	1後 2後	日本赤十字 北海道看護 大学 日本赤十字 豊田看護大 学	1			2					
	科学的研究方法論Ⅲ (尺度開発)	1前 2前	日本赤十字 北海道看護 大学	1			2					
	科学的研究方法論Ⅳ (質的研究)	1後 2後	日本赤十字 九州国際 種大学 日本赤十字 北海道看護 大学	1			2					
	科学的研究方法論Ⅴ (文化人類学的研究)	1前 2前	日本赤十字 九州国際 種大学	1			1					
	科学的研究方法論Ⅵ (理論構築)	1後 2後	日本赤十字 北海道看護 大学	1			1					
	臨床倫理論	1後 2後	日本赤十字 九州国際 種大学 日本赤十字 北海道看護 大学	1			2					

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	構成大学	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
				必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通科目	看護理論	1後 2後 1前 2前	日本赤十字 豊田看護大 学	1								1
	赤十字人道援助論	1後 2後	日本赤十字 秋田看護大 学	1								1
	科学的研究方法論Ⅰ (実験研究)	1前 2前	日本赤十字 北海道看護 大学 日本赤十字 九州国際 種大学	1			2	+	1			1
	科学的研究方法論Ⅱ (臨床介入研究)	1後 2後	日本赤十字 北海道看護 大学 日本赤十字 豊田看護大 学	1			2					
	科学的研究方法論Ⅲ (尺度開発)	1前 2前	日本赤十字 北海道看護 大学	1			2					
	科学的研究方法論Ⅳ (質的研究)	1後 2後	日本赤十字 九州国際 種大学 日本赤十字 北海道看護 大学	1			2					
	科学的研究方法論Ⅴ (文化人類学的研究)	1前 2前	日本赤十字 九州国際 種大学	1			1					
	科学的研究方法論Ⅵ (理論構築)	1後 2後	日本赤十字 北海道看護 大学	1			1					
	臨床倫理論	1後 2後	日本赤十字 九州国際 種大学 日本赤十字 北海道看護 大学	1			2					

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	構成大学	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
				必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	看護人材開発特論	1前 2前	日本赤十字 九州国際看護大学 日本赤十字 広島看護大学 日本赤十字 豊田看護大学	2			4						
	実践看護学特論	1前 2前	日本赤十字 広島看護大学	2			2						
	療養生活看護学特論	1前 2前	日本赤十字 北海道看護大学	2			3						
	生涯発達看護学特論	1前 2前	日本赤十字 豊田看護大学 日本赤十字 秋田看護大学	2			4						
	広域連携看護学特論	1前 2前	日本赤十字 広島看護大学 日本赤十字 秋田看護大学 日本赤十字 九州国際看護大学	2			5						
	災害救護特論	1前 2前	日本赤十字 広島看護大学 日本赤十字 九州国際看護大学	2			2					1	
健康科学特論	1前 2前	日本赤十字 北海道看護大学	2			1						1	

授業科目の名称	配当年次	構成大学	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
看護人材開発特論	1前 2前	日本赤十字 九州国際看護大学 日本赤十字 広島看護大学 日本赤十字 豊田看護大学	2			4						
実践看護学特論	1前 2前	日本赤十字 広島看護大学	2			2						
療養生活看護学特論	1前 2前	日本赤十字 北海道看護大学	2			3						
生涯発達看護学特論	1前 2前	日本赤十字 豊田看護大学 日本赤十字 秋田看護大学 日本赤十字 北海道看護大学	2			4						
広域連携看護学特論	1前 2前	日本赤十字 広島看護大学 日本赤十字 秋田看護大学 日本赤十字 九州国際看護大学	2			5						
災害救護特論	1前 2前	日本赤十字 広島看護大学 日本赤十字 九州国際看護大学	2			2					1	
健康科学特論	1前 2前	日本赤十字 北海道看護大学	2			+					+	2

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	構成大学	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
				必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
演習	看護学演習	1通	日本赤十字 北海道看護 大学	2			24	1					
			日本赤十字 秋田看護大 学										
			日本赤十字 鹿児島看護大 学										
合同研究ゼミナール	合同研究ゼミナール	1後	日本赤十字 北海道看護 大学	2			24	1					
			日本赤十字 秋田看護大 学										
			日本赤十字 鹿児島看護大 学										
特別研究	特別研究	2~3 通	日本赤十字 北海道看護 大学	8			22						
			日本赤十字 秋田看護大 学										
			日本赤十字 鹿児島看護大 学										

授業科目の名称	配当年次	構成大学	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
看護学演習	1通	日本赤十字 北海道看護 大学	2			24	+						
		日本赤十字 秋田看護大 学											
		日本赤十字 鹿児島看護大 学											
合同研究ゼミナール	1後	日本赤十字 北海道看護 大学	2			24	+						
		日本赤十字 秋田看護大 学											
		日本赤十字 鹿児島看護大 学											
特別研究	2~3 通	日本赤十字 北海道看護 大学	8			22							
		日本赤十字 秋田看護大 学											
		日本赤十字 鹿児島看護大 学											

【平成28年度】

【平成29年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	構成大学	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
				必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通科目	看護理論	1後 2後 1前 2前	日本赤十字 豊田看護大 学	1								1
	赤十字人道援助論	1後 2後	日本赤十字 秋田看護大 学	1								1
	科学的研究方法論Ⅰ (実験研究)	1前 2前	日本赤十字 北海道看護 大学 日本赤十字 九州国際学 校	1			2	1	1			
	科学的研究方法論Ⅱ (臨床介入研究)	1後 2後	日本赤十字 北海道看護 大学 日本赤十字 豊田看護大 学	1			2					
	科学的研究方法論Ⅲ (尺度開発)	1前 2前	日本赤十字 北海道看護 大学	1			2					
	科学的研究方法論Ⅳ (質的研究)	1後 2後	日本赤十字 九州国際学 校 日本赤十字 北海道看護 大学	1			2					
	科学的研究方法論Ⅴ (文化人類学的研究)	1前 2前	日本赤十字 九州国際学 校	1			1					
	科学的研究方法論Ⅵ (理論構築)	1後 2後	日本赤十字 北海道看護 大学	1			1					
	臨床倫理論	1後 2後	日本赤十字 九州国際学 校 日本赤十字 北海道看護 大学	1			2					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	構成大学	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
				必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通科目	看護理論	1後 2後 1前 2前	日本赤十字 豊田看護大 学	1								1
	赤十字人道援助論	1後 2後	日本赤十字 秋田看護大 学	1								1
	科学的研究方法論Ⅰ (実験研究)	1前 2前	日本赤十字 北海道看護 大学 日本赤十字 九州国際学 校	1			2	1	1		1	
	科学的研究方法論Ⅱ (臨床介入研究)	1後 2後	日本赤十字 北海道看護 大学 日本赤十字 豊田看護大 学	1			2					
	科学的研究方法論Ⅲ (尺度開発)	1前 2前	日本赤十字 北海道看護 大学	1			2					
	科学的研究方法論Ⅳ (質的研究)	1後 2後	日本赤十字 九州国際学 校 日本赤十字 北海道看護 大学	1			2					
	科学的研究方法論Ⅴ (文化人類学的研究)	1前 2前	日本赤十字 九州国際学 校	1			1					
	科学的研究方法論Ⅵ (理論構築)	1後 2後	日本赤十字 北海道看護 大学	1			1					
	臨床倫理論	1後 2後	日本赤十字 九州国際学 校 日本赤十字 北海道看護 大学	1			2					

【平成28年度】

【平成29年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	構成大学	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
				必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	看護人材開発特論	1前 2前	日本赤十字 九州国際看護大学 日本赤十字 広島看護大学 日本赤十字 豊田看護大学	2			4						
	実践看護学特論	1前 2前	日本赤十字 広島看護大学	2			2						
	療養生活看護学特論	1前 2前	日本赤十字 北海道看護大学	2			3						
	生涯発達看護学特論	1前 2前	日本赤十字 豊田看護大学 日本赤十字 秋田看護大学 日本赤十字 北海道看護大学	2			4						
	広域連携看護学特論	1前 2前	日本赤十字 広島看護大学 日本赤十字 秋田看護大学 日本赤十字 九州国際看護大学	2			5						
	災害救護特論	1前 2前	日本赤十字 広島看護大学 日本赤十字 九州国際看護大学	2			2					1	
	健康科学特論	1前 2前	日本赤十字 北海道看護大学	2			1						1

授業科目の名称	配当年次	構成大学	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
看護人材開発特論	1前 2前	日本赤十字 九州国際看護大学 日本赤十字 広島看護大学 日本赤十字 豊田看護大学	2			4						
実践看護学特論	1前 2前	日本赤十字 広島看護大学	2			2						
療養生活看護学特論	1前 2前	日本赤十字 北海道看護大学	2			3						
生涯発達看護学特論	1前 2前	日本赤十字 豊田看護大学 日本赤十字 秋田看護大学 日本赤十字 北海道看護大学	2			4						
広域連携看護学特論	1前 2前	日本赤十字 広島看護大学 日本赤十字 秋田看護大学 日本赤十字 九州国際看護大学	2			5						
災害救護特論	1前 2前	日本赤十字 広島看護大学 日本赤十字 九州国際看護大学	2			2						1
健康科学特論	1前 2前	日本赤十字 北海道看護大学	2			1						1 2

【平成28年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	構成大学	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
				必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
演習	看護学演習	1通	日本赤十字 北海道看護 大学 日本赤十字 秋田看護大 学 日本赤十字 豊田看護大 学 日本赤十字 広島看護大 学 日本赤十字 九州国際 看護大学	2			24	1					
	合同研究ゼミナール	1後	日本赤十字 北海道看護 大学 日本赤十字 秋田看護大 学 日本赤十字 豊田看護大 学 日本赤十字 広島看護大 学 日本赤十字 九州国際 看護大学	1			24	1					
	特別研究	2~3 通	日本赤十字 北海道看護 大学 日本赤十字 秋田看護大 学 日本赤十字 豊田看護大 学 日本赤十字 広島看護大 学 日本赤十字 九州国際 看護大学	8			22						

【平成29年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	構成大学	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
				必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
演習	看護学演習	1通	日本赤十字 北海道看護 大学 日本赤十字 秋田看護大 学 日本赤十字 豊田看護大 学 日本赤十字 広島看護大 学 日本赤十字 九州国際 看護大学	2			24						
	合同研究ゼミナール	1後	日本赤十字 北海道看護 大学 日本赤十字 秋田看護大 学 日本赤十字 豊田看護大 学 日本赤十字 広島看護大 学 日本赤十字 九州国際 看護大学	1			24						
	特別研究	2~3 通	日本赤十字 北海道看護 大学 日本赤十字 秋田看護大 学 日本赤十字 豊田看護大 学 日本赤十字 広島看護大 学 日本赤十字 九州国際 看護大学	8			22						

- (注) ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。
- ・ その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。
- ・ 1ページ目には認可時又は届出時と平成30年度の表を記入してください。
- ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) 一②授業科目表に関する変更内容

【平成28年度】

「看護理論」を研究に生かすため、研究計画構想の時期を考慮し「前期」に変更。
 教授の異動により、「科学的研究方法論Ⅱ」の構成大学から日本赤十字豊田看護大学を削除。
 教授の異動により、「生涯発達看護学特論」の構成大学に日本赤十字北海道看護大学を追加。

【平成29年度】

准教授が「AC教員審査」で保留となり、「科学的研究方法論Ⅰ」の専任教員等の配置を准教授から兼任に変更。
 准教授が「AC教員審査」で保留となり、「健康科学特論」の専任教員等の配置を准教授から兼任に変更。
 准教授が「AC教員審査」で保留となり、「看護学演習」の専任教員等の配置から准教授1名を削除。
 准教授が「AC教員審査」で保留となり、「合同研究ゼミナール」の専任教員等の配置から准教授1名を削除。

【平成30年度】

特になし。

- (注) ・ 変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を簡潔書きで記入してください。
- ・ 変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
- ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

大学名	設置時の計画				変更状況				備考
	必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
日本赤十字北海道看護大学	3 科目	8 科目	- 科目	11 科目	3 科目 [0]	9 科目 [1]	- 科目 []	12 科目 [1]	
日本赤十字豊田看護大学	3 科目	3 科目	- 科目	6 科目	3 科目 [0]	3 科目 [0]	- 科目 []	6 科目 [0]	
日本赤十字豊田看護大学	3 科目	4 科目	- 科目	7 科目	3 科目 [0]	3 科目 [Δ1]	- 科目 []	6 科目 [0]	
日本赤十字豊田看護大学	3 科目	4 科目	- 科目	7 科目	3 科目 [0]	4 科目 [0]	- 科目 []	7 科目 [0]	
日本赤十字豊田看護大学	3 科目	7 科目	- 科目	10 科目	3 科目 [0]	7 科目 [0]	- 科目 []	10 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：Δ1)

(3) 未開講科目

	番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
日本赤十字北海道看護大学	1	該当なし					
	2						
	3						
日本赤十字秋田看護大学	1	該当なし					
	2						
	3						
日本赤十字豊田看護大学	1	該当なし					
	2						
	3						
日本赤十字広島看護大学	1	該当なし					
	2						
	3						
日本赤十字九州国際看護大学	1	該当なし					
	2						
	3						

- (注) ・ 授業科目が配当年次に達しているにもかかわらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。

(4) 廃止科目

	番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
日本赤十字北海道看護大学	1	該当なし					
	2						
	3						
日本赤十字秋田看護大学	1	該当なし					
	2						
	3						
日本赤十字豊田看護大学	1	該当なし					
	2						
	3						
日本赤十字広島看護大学	1	該当なし					
	2						
	3						
日本赤十字九州国際看護大学	1	該当なし					
	2						
	3						

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目を何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

日本赤十字北海道看護大学：該当なし
日本赤十字秋田看護大学：該当なし
日本赤十字豊田看護大学：該当なし
日本赤十字広島看護大学：該当なし
日本赤十字九州国際看護大学：該当なし

(注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

(日本赤十字北海道看護大学)					
未開講科目(3)と廃止科目(4)の計	=	$\frac{0}{0}$	=	#DIV/0!	%
設置時の計画の授業科目数の計(A)					
(日本赤十字秋田看護大学)					
未開講科目(3)と廃止科目(4)の計	=	$\frac{0}{0}$	=	#DIV/0!	%
設置時の計画の授業科目数の計(A)					
(日本赤十字豊田看護大学)					
未開講科目(3)と廃止科目(4)の計	=	$\frac{0}{0}$	=	#DIV/0!	%
設置時の計画の授業科目数の計(A)					
(日本赤十字広島看護大学)					
未開講科目(3)と廃止科目(4)の計	=	$\frac{0}{0}$	=	#DIV/0!	%
設置時の計画の授業科目数の計(A)					
(日本赤十字九州国際看護大学)					
未開講科目(3)と廃止科目(4)の計	=	$\frac{0}{0}$	=	#DIV/0!	%
設置時の計画の授業科目数の計(A)					

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
 ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

(日本赤十字北海道看護大学)

区 分		内 容				備考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体		
	校舎敷地	24,914㎡	— ㎡	— ㎡	24,914㎡			
	運動場用地	17,812㎡	— ㎡	— ㎡	17,812㎡			
	小 計	42,726㎡	— ㎡	— ㎡	42,726㎡			
	そ の 他	17,062㎡	— ㎡	— ㎡	17,062㎡			
	合 計	59,788㎡	— ㎡	— ㎡	59,788㎡			
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体			
	15,319㎡ (15,319㎡)	— ㎡ (— ㎡)	— ㎡ (— ㎡)	15,319㎡ (15,319㎡)				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体		
	9室	12室	4室	2室 (補助職員 1人)	1室 (補助職員 1人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数					
	看護学研究科共同看護学専攻		9 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	大学全体 図書等の新規受入及び 学術雑誌の休刊のため。 電子ジャーナルについては 記載漏れ(28)
	看護学研究科共同 看護学専攻	(41,910 [5,209]) (40,824 [5,138]) (39,380 [4,923]) (37,010 [4,923])	111 [35] (92 [20]) (109 [35]) (111 [35])	4,220 [3,048] — [—] (4,220 [3,156]) (4,220 [3,048]) (— [—])	915 (1,134) (1,095) (915)	9,910 (9,910)	53 (53)	
	計	(41,910 [5,209]) (40,824 [5,138]) (39,380 [4,923]) (37,010 [4,923])	111 [35] (92 [20]) (109 [35]) (111 [35])	4,220 [3,048] — [—] (4,220 [3,156]) (4,220 [3,048]) (— [—])	915 (1,134) (1,095) (915)	9,910 (9,910)	53 (53)	
(6) 図 書 館	面 積	閱 覧 座 席 数	収 納 可 能 冊 数		大学全体			
	1,547㎡	208	87,583					
(7) 体 育 館	面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
	795㎡	テ ニ ス コ ー ト 3 面						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当り研究費等	700千円	700千円	図書購入費	6,000千円	6,000千円	6,000千円
		共同研究費等	3,000千円	3,000千円	設備購入費	4,000千円	4,000千円	4,000千円
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		1,500千円	1,100千円	1,100千円	— 千円	— 千円	— 千円	
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学経常費補助金、資産運用収入、雑費収入等						

(日本赤十字秋田看護大学)

区 分		内 容				備考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	日本赤十字秋田短期大 学(必要面積1,000 ㎡)と共用		
	校舎敷地	1,267.55 ㎡	4,060.44 ㎡	— ㎡	5,327.99 ㎡			
	運動場用地	— ㎡	9,408.69 ㎡	— ㎡	9,408.69 ㎡			
	小 計	1,267.55 ㎡	13,469.13 ㎡	— ㎡	14,736.68 ㎡			
	そ の 他	— ㎡	24,436.30 ㎡	— ㎡	24,436.30 ㎡			
	合 計	1,267.55 ㎡	37,905.43 ㎡	— ㎡	39,172.98 ㎡			
(2) 校 舎	専 用	3,522.81 ㎡	7,907.76 ㎡	915.44 ㎡	12,346.01 ㎡	日本赤十字秋田短期大 学(必要面積1,600 ㎡)と共用		
	(3,522.81 ㎡)	(7,907.76 ㎡)	(915.44 ㎡)	(12,346.01 ㎡)				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体		
	12室	20室	7室	1室 (補助職員一人)	1室 (補助職員一人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数				
	看護学研究科共同看護学専攻			4 室				
図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書 冊	学術雑誌 種	視聴覚資料 点	機 械 ・ 器 具 点	標 本 点	大学全体 外国書と視聴覚資料の 購入金額と予算との調 整による国内書の減及び 学術雑誌の休刊のため (28) 電子ジャーナルの増加 数が学術雑誌の増加数 を上回った理由は、学 術雑誌の電子化無料公 開等により冊子体の購 入中止や休刊のため である(29) 図書等の新規受入によ る増。電子ジャーナル の増加数が学術雑誌の 増加数を上回った理由 は、学術雑誌の電子化 無料公開等により冊子 体の購入中止や休刊の ためである(30) 機械、器具の新規購入 による増。(30)	
	看護学研究科共 同看護学専攻	39,780 [4,690]	2,000 [820]	1,900 [800]	2,420	2,011		43
		(39,428 [4,609]) (37,596 [4,566]) (36,423 [4,495]) (36,660 [4,480])	(2,185 [823]) (2,092 [757]) (1,941 [757]) (1,950 [800])	(2,087 [802]) (1,992 [736]) (1,836 [736]) (1,850 [780])	(2,363) (2,332) (2,196) (2,180)	2,213 (2,010) (2,011)		45 (43)
計	39,780 [4,690]	2,000 [820]	1,900 [800]	2,420	2,011	43		
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数	収 納 可 能 冊 数		大学全体		
	835.02㎡		118	45,000				
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要			大学全体		
	1,283.84㎡		テニスコート2面					
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当り研究費等	600千円	600千円	図書購入費	2,000千円	500千円	500千円
	共同研究費等	1,000千円	1,000千円	設備購入費	1,000千円	— 千円	— 千円	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		1,500千円	1,100千円	1,100千円	— 千円	— 千円	— 千円	
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学経常費補助金、資産運用収入、雑費収入等						

(日本赤十字豊田看護大学)

区 分		内 容				備考					
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体 借用面積：35,478.00 ㎡ 借用期間：30年					
	校舎敷地	45,053㎡	㎡	㎡	45,053㎡						
	運動場用地	4,454㎡	㎡	㎡	4,454㎡						
	小 計	49,507㎡	㎡	㎡	49,507㎡						
	そ の 他	5,681㎡	㎡	㎡	5,681㎡						
	合 計	55,188㎡	㎡	㎡	55,188㎡						
(2) 校 舎	専 用	14,166.36㎡	㎡	㎡	14,166.36㎡	大学全体 借用面積：340.81㎡ 借用期間：30年					
	(14,166.36㎡)	(㎡)	(㎡)	(14,166.36㎡)							
(3) 教 室 等	講 義 室	9室	演 習 室	14室	実験実習室	6室	情報処理学習施設	1室	語学学習施設	1室	大学全体 (補助職員 -人) (補助職員 -人)
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称				室 数						
	看護学研究科共同看護学専攻				12		室				
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機 械 ・ 器 具 点	標 本 点				
	看護学研究科共 同看護学専攻	50,000 [3,000] (52,106[3,353]) (50,394[2,992]) (49,262[2,924]) (47,000[2,700])	220 [36] (217 [36])	1,486 [1,470] (2,775 [1,470]) (1,486 [1,470])	2,000 (2,176) (2,150) (2,052) (2,000)	7,665 (7,729) (7,878) (7,845) (7,659)	321 (321)	大学全体 図書移管及び整備品目 追加による増 (28) 図書移管及び整備品目 追加による増 (29) 図書移管、全文付デー タベース契約及び整備 品目追加による増 (30)			
	計	50,000 [3,000] (52,106[3,353]) (50,394[2,992]) (49,262[2,924]) (47,000[2,700])	220 [36] (217 [36])	1,486 [1,470] (1,486 [1,470])	2,000 (2,176) (2,150) (2,052) (2,000)	7,665 (7,729) (7,878) (7,845) (7,659)	321 (321)				
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数						
	1,265.67㎡		421 124		71,725		大学全体 閲覧席増加による増(29)				
(7) 体 育 館	面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要								
	1,656.74㎡		テニスコート2面								
(8) 経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度			
		教員1人当り研究費等	508千円	508千円	図書購入費	685千円	685千円	685千円			
	共同研究費等	2,000千円	2,000千円	設備購入費	1,500千円	1,500千円	1,500千円				
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
		1,500千円	1,100千円	1,100千円	-千円	-千円	-千円				
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学経常費補助金、資産運用収入、雑費収入等									

(日本赤十字広島看護大学)

区 分		内 容				備考					
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体 借用面積: 6,678.10㎡ 借用期間:22年					
	校舎敷地	34,228.84㎡	— ㎡	— ㎡	34,228.84㎡						
	運動場用地	4,460.00㎡	— ㎡	— ㎡	4,460.00㎡						
	小 計	38,668.84㎡	— ㎡	— ㎡	38,668.84㎡						
	そ の 他	2,220.41㎡	— ㎡	— ㎡	2,220.41㎡						
	合 計	40,909.25㎡	— ㎡	— ㎡	40,909.25㎡						
(2) 校 舎	専 用	19,437.53㎡	— ㎡	— ㎡	19,437.53㎡	大学全体					
	(19,437.53㎡)	(— ㎡)	(— ㎡)	(— ㎡)	(19,437.53㎡)						
(3) 教 室 等	講 義 室	10室	演 習 室	14室	実験実習室	6室	情報処理学習施設	2室	語学学習施設	1室	大学院情報処理室を廃し、大学院研究室1に変更した。情報処理端末は大学院研究室1~3に配備した(28) 多目的実習室を講義室301に名称変更。研究室、共同研究室を演習室に名称変更(29)
						(補助職員 人)		(補助職員 人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数							
	看護学研究科共同看護学専攻			10 室							
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	大学全体 購入及び寄贈による増冊(28) 購入及び寄贈による増冊(29) 購入及び寄贈による増冊(30)			
	看護学研究科共同看護学専攻	63,461 [7,399] 70,187 (7,667) (68,555 [7,613]) (67,801 [7,520]) (63,461 [7,399])	628 [109] (651 [110]) (649 [110]) (628 [109])	2,992 [2,030] (3,296 [2,059]) (3,181 [2,059]) (2,992 [2,030])	1,220 (1,404) (1,366) (1,300) (1,220)	— (—) (—)	— (—) (—)				
	計	63,461 [7,399] 70,187 (7,667) (68,555 [7,613]) (67,801 [7,520]) (63,461 [7,399])	628 [109] (651 [110]) (649 [110]) (628 [109])	2,992 [2,030] (3,296 [2,059]) (3,181 [2,059]) (2,992 [2,030])	1,220 (1,404) (1,366) (1,300) (1,220)	— (—) (—)	— (—) (—)				
(6) 図 書 館	面 積	閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体					
	1,199.00㎡	128		100,000							
(7) 体 育 館	面 積	体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要				大学全体					
	2,136.68㎡	テニスコート									
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度			
		教員1人当り研究費等	547千円	547千円	図書購入費	11,800千円	11,800千円	11,800千円			
	共同研究費等	2,500千円	2,500千円	設備購入費	18,000千円	18,000千円	18,000千円				
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
		1,500千円	1,100千円	1,100千円	— 千円	— 千円	— 千円				
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学経常費補助金、資産運用収入、雑費収入等									

(日本赤十字九州国際看護大学)

区 分		内 容				備考			
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体 借用面積: 20,384.67㎡ 借用期間:30年			
	校舎敷地	23,521㎡	— ㎡	— ㎡	23,521㎡				
	運動場用地	8,287㎡	— ㎡	— ㎡	8,287㎡				
	小 計	31,808㎡	— ㎡	— ㎡	31,808㎡				
	そ の 他	23,032㎡	— ㎡	— ㎡	23,032㎡				
	合 計	54,840㎡	— ㎡	— ㎡	54,840㎡				
(2) 校舎	専 用	13,363㎡	— ㎡	— ㎡	13,363㎡	大学全体			
	(13,363㎡)	(— ㎡)	(— ㎡)	(13,363㎡)					
(3) 教室等	講義室	11室 40室	演習室 6室 40室	実験実習室 5室 4室	情報処理学習施設 4室 (補助職員一人)	語学学習施設 1室 (補助職員一人)	演習室の一部をラーニング・コモンズに変更。「実験実習室」は設置申請時、「実験室」のみを記載していた為、修正(28)セミナールームを大学院専用講義室に変更。(30)		
	新設学部等の名称	看護学研究科共同看護学専攻			室 数 9 14	室			
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	大学全体 図書等の新規受入及び学術雑誌の廃刊のため(28) 図書等の新規受入及び学術雑誌の廃刊のため(29) 図書等の新規受入及び学術雑誌の廃刊のため(30)	
	看護学研究科共同看護学専攻	45,947 [7,152] (50,453[7,430]) (49,582 [7,372]) (47,765 [7,260]) (45,947 [7,152])	94 [16] (85 [14]) (94 [16])	2,201 [580] (4,486[3,188]) (2,367 [567]) (2,234 [582]) (2,201 [580])	1,245 (1,390) (1,344) (1,302) (1,245)	2,370 (2,342) (2,370)	8 (8)		
	計	45,947 [7,152] (50,453[7,430]) (49,582 [7,372]) (47,765 [7,260]) (45,947 [7,152])	94 [16] (85 [14]) (94 [16])	2,201 [580] (4,486[3,188]) (2,367 [567]) (2,234 [582]) (2,201 [580])	1,245 (1,390) (1,344) (1,302) (1,245)	2,370 (2,342) (2,370)	8 (8)		
	面 積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数					
(6) 図書館	905㎡	109		62,000				大学全体	
(7) 体育館	面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体		
	1,182㎡	弓道場							
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	
		教員1人当り研究費等	85千円	91千円	図書購入費	1,567千円	1,567千円	1,566千円	
	共同研究費等	4,177千円	4,177千円	設備購入費	2,500千円	1,632千円	1,632千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		1,500千円	1,100千円	1,100千円	— 千円	— 千円	— 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学経常費補助金、資産運用収入、雑費収入等							

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の2)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成30年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(30)」を「備考」に赤字で記入してください。

なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。

- ・ 校舎等建物の計画の変更（校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延）がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。

- ・ 構成大学ごとに記入してください。

4 AC対象学部等を含む大学等の状況

(日本赤十字北海道看護大学)

大学の名称	日本赤十字北海道看護大学								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均入 学 定 員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
看護学部 看護学科	4	100	-	400	学士 (看護学)	1.11	平成11年度	北海道北見市曙町 664番地の1	
大学院 看護学研究科 看護学専攻 修士課程	2	16	-	32	修士 (看護学)	0.59	平成15年度	同上	
大学院 看護学研究科 共同看護学専攻 博士課程	3	2	-	6	博士 (看護学)	1.50	平成28年度	同上	

(日本赤十字秋田看護大学)

大学の名称	日本赤十字秋田看護大学								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均入 学 定 員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
看護学部 看護学科	4	100	-	400	学士 (看護学)	1.11	平成21年度	秋田県秋田市上北手 猿田字苗代沢17番地3	
大学院 看護学研究科 看護学専攻 修士課程	2	12	-	24	修士 (看護学)	0.54	平成23年度	同上	
大学院 看護学研究科 共同看護学専攻 博士課程	3	2	-	6	博士 (看護学)	1.16	平成28年度	同上	

(日本赤十字看護大学)

大学の名称	日本赤十字看護大学							備考	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開設年度	所在地	
看護学部 看護学科	4年	130人	10人 3年次	540人	学士 (看護学)	1.11倍	昭和61年度	東京都渋谷区広尾 4丁目1番3号	
大学院 看護学研究科 看護学専攻 修士課程	2	30		60	修士 (看護学)	1.00	平成5年度	同上	
大学院 看護学研究科 修士課程	2	15		30	修士 (看護学)	1.00	平成19年度	同上	
大学院 看護学研究科 看護学専攻 博士課程	3	8	-	21	博士 (看護学)	1.84	平成7年度	同上	平成29年度入学生から入学定員・収容定員の増(29)
大学院 看護学研究科 共同災害看護学専攻 博士課程	5	2	-	10	博士 (看護学)	1.00	平成26年度	同上	

(日本赤十字豊田看護大学)

大学の名称	日本赤十字豊田看護大学								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 定 学 員	編入学 定 員	収 容 員	学位又 は 称号	平均入学 定員 超過率	開 年 設 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
看護学部 看護学科	4	120		480	学士 (看護学)	1.12	平成16年度	愛知県豊田市白山町 七曲12-33	
大学院 看護学研究科 看護学専攻 修士課程	2	10		20	修士 (看護学)	0.65	平成22年度	同上	
大学院 看護学研究科 共同看護学専攻 博士課程	3	2	-	6	博士 (看護学)	1.16	平成28年度	同上	

(日本赤十字広島看護大学)

大学の名称	日本赤十字広島看護大学								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 定 学 員	編入学 定 員	収 容 員	学位又 は 称号	平均入学 定員 超過率	開 年 設 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
看護学部 看護学科	4	125		500	学士 (看護学)	1.16	平成12年度	広島県廿日市市阿品 台東1番2号	
大学院 看護学研究科 看護学専攻 修士課程	2	10		20	修士 (看護学)	0.90	平成16年度	同上	
大学院 看護学研究科 共同看護学専攻 博士課程	3	2	-	6	博士 (看護学)	1.50	平成28年度	同上	

(日本赤十字九州国際看護大学)

大学の名称	日本赤十字九州国際看護大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
看護学部 看護学科	4	100		400	学士 (看護学)	1.09	平成13年度	福岡県宗像市アスティ 1丁目1番地	
大学院 看護学研究科 看護学専攻 修士課程	2	10		20	修士 (看護学) 修士 (保健学)	0.95	平成19年度	同上	
大学院 看護学研究科 共同看護学専攻 博士課程	3	2	-	6	博士 (看護学)	1.00	平成28年度	同上	

(日本赤十字秋田短期大学)

大学の名称	日本赤十字秋田短期大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
介護福祉学科	2	30		80	短期大 学士 (介護福祉学)	0.53	平成8年度	秋田県秋田市上北手 猿田字苗代沢17番地3	平成30年度入学生 から入学定員の減 (30)

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部、学科)、大学院(専攻)及び短期大学(学科)(A C対象学部等含む)について、それぞれの学校種ごとに、平成30年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 ※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。
 - ・A C対象学部等については、必ず記入するとともに、下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「-」とし、「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。
 - ・構成大学毎に記入してください。

5 教員組織の状況

(1) ① 担当教員表

<日本赤十字北海道看護大学>

【認可時又は届出時】

【平成28年度】

【平成29年度】

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任の 別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専任	教授	河口 てる子 <平成28年4月>
		科学的研究方法論Ⅲ (尺度開発) 科学的研究方法論Ⅵ (理論構築) 療養生活看護学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
専任	教授	中野 実代子 <平成28年4月>
		科学的研究方法論Ⅲ (尺度開発) 療養生活看護学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール
専任	教授	石崎 智子 <平成28年4月>
		科学的研究方法論Ⅳ (質的研究) 臨床倫理論 療養生活看護学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
専任	教授	伊藤 善也 <平成28年4月>
		科学的研究方法論Ⅱ (臨床介入研究)
専任	准教授	山本 憲志 <平成28年4月>
		科学的研究方法論Ⅰ (実験研究) 健康科学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール
専任	教授	根本 昌宏 <平成28年4月>
		科学的研究方法論Ⅰ (実験研究)
専任	講師	村林 宏 <平成28年4月>
		科学的研究方法論Ⅰ (実験研究)

専任・ 兼任・ 兼任の 別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専任	教授	河口 てる子 <平成28年4月>
		科学的研究方法論Ⅲ (尺度開発) 科学的研究方法論Ⅵ (理論構築) 療養生活看護学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
専任	教授	中野 実代子 <平成28年4月>
		科学的研究方法論Ⅲ (尺度開発) 療養生活看護学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール
専任	教授	石崎 智子 <平成28年4月>
		科学的研究方法論Ⅳ (質的研究) 臨床倫理論 療養生活看護学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
専任	教授	伊藤 善也 <平成28年4月>
		科学的研究方法論Ⅱ (臨床介入研究)
専任	准教授	山本 憲志 <平成28年4月>
		科学的研究方法論Ⅰ (実験研究) 健康科学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール
専任	教授	根本 昌宏 <平成28年4月>
		科学的研究方法論Ⅰ (実験研究)
専任	講師	村林 宏 <平成28年4月>
		科学的研究方法論Ⅰ (実験研究)

専任・ 兼任・ 兼任の 別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専任	教授	河口 てる子 <平成28年4月>
		科学的研究方法論Ⅲ (尺度開発) 科学的研究方法論Ⅵ (理論構築) 療養生活看護学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
専任	教授	中野 実代子 <平成28年4月>
		科学的研究方法論Ⅲ (尺度開発) 療養生活看護学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール
専任	教授	石崎 智子 <平成28年4月>
		科学的研究方法論Ⅳ (質的研究) 臨床倫理論 療養生活看護学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
専任	教授	伊藤 善也 <平成28年4月>
		科学的研究方法論Ⅱ (臨床介入研究)
専任	教授	根本 昌宏 <平成28年4月>
		科学的研究方法論Ⅰ (実験研究)
専任	講師	村林 宏 <平成28年4月>
		科学的研究方法論Ⅰ (実験研究)

専任・ 兼任・ 兼任の 別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専任	教授	河口 てる子 <平成28年4月>
		科学的研究方法論Ⅲ (尺度開発) 科学的研究方法論Ⅵ (理論構築) 療養生活看護学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
専任	教授	中野 実代子 <平成28年4月>
		科学的研究方法論Ⅲ (尺度開発) 療養生活看護学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール
専任	教授	石崎 智子 <平成28年4月>
		科学的研究方法論Ⅳ (質的研究) 臨床倫理論 療養生活看護学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
専任	教授	伊藤 善也 <平成28年4月>
		科学的研究方法論Ⅱ (臨床介入研究)
専任	教授	根本 昌宏 <平成28年4月>
		科学的研究方法論Ⅰ (実験研究)
専任	講師	村林 宏 <平成28年4月>
		科学的研究方法論Ⅰ (実験研究)

兼任	教授	島井 哲志 <平成28年4月> 健康科学特論

		西片 久美子 <平成28年4月>
専任	教授	科学的研究方法論Ⅱ (臨床介入研究) 生涯発達看護学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
兼任	教授	島井 哲志 <平成28年4月> 健康科学特論

		西片 久美子 <平成28年4月>
専任	教授	科学的研究方法論Ⅱ (臨床介入研究) 生涯発達看護学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
兼任	教授	島井 哲志 <平成28年4月> 健康科学特論
兼任	教授	佐藤 満 <平成29年4月> 科学的研究方法論Ⅰ (実験研究) 健康科学特論

		西片 久美子 <平成28年4月>
専任	教授	科学的研究方法論Ⅱ (臨床介入研究) 生涯発達看護学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
兼任	教授	島井 哲志 <平成28年4月> 健康科学特論
兼任	教授	佐藤 満 <平成29年4月> 科学的研究方法論Ⅰ (実験研究) 健康科学特論

<日本赤十字秋田看護大学>

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		担当授業科目名
専	教授	安藤 広子 <平成28年4月>
		生涯発達看護学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
専	教授	鈴木 聖子 <平成28年4月>
		広域連携看護学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
専	教授	藤井 博英 <平成28年4月>
		看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
兼任	教授	東浦 洋 <平成28年4月>
		赤十字人道援助論

【平成28年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		担当授業科目名
専	教授	安藤 広子 <平成28年4月>
		生涯発達看護学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
専	教授	鈴木 聖子 <平成28年4月>
		広域連携看護学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
専	教授	藤井 博英 <平成28年4月>
		看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
兼任	教授	東浦 洋 <平成28年4月>
		赤十字人道援助論

【平成29年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		担当授業科目名
専	教授	安藤 広子 <平成28年4月>
		生涯発達看護学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
専	教授	鈴木 聖子 <平成28年4月>
		広域連携看護学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
専	教授	山田 典子 <平成29年4月>
		看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
兼任	教授	東浦 洋 <平成28年4月>
		赤十字人道援助論

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		担当授業科目名
専	教授	安藤 広子 <平成28年4月>
		生涯発達看護学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
専	教授	鈴木 聖子 <平成28年4月>
		広域連携看護学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
専	教授	山田 典子 <平成29年4月>
		看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
兼任	教授	東浦 洋 <平成28年4月>
		赤十字人道援助論

<日本赤十字豊田看護大学>

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専任	教授	大西 文子 <平成28年4月>
		生涯発達看護学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
専任	教授	西片 久美子 <平成28年4月>
		科学的研究方法論Ⅱ (臨床介入研究) 生涯発達看護学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
専任	教授	東野 督子 <平成28年4月>
		看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
専任	教授	山田 聡子 <平成28年4月>
		看護人材開発特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
専任	教授	野口(多賀谷)真弓 <平成28年4月>
		生涯発達看護学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
兼任	教授	筒井 真優美 <平成28年4月>
		看護理論

【平成28年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専任	教授	大西 文子 <平成28年4月>
		生涯発達看護学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
専任	教授	東野 督子 <平成28年4月>
		看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
専任	教授	山田 聡子 <平成28年4月>
		看護人材開発特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
専任	教授	野口(多賀谷)真弓 <平成28年4月>
		生涯発達看護学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
兼任	教授	筒井 真優美 <平成28年4月>
		看護理論

【平成29年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専任	教授	大西 文子 <平成28年4月>
		生涯発達看護学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
専任	教授	東野 督子 <平成28年4月>
		看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
専任	教授	山田 聡子 <平成28年4月>
		看護人材開発特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
専任	教授	野口(多賀谷)真弓 <平成28年4月>
		生涯発達看護学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
兼任	教授	筒井 真優美 <平成28年4月>
		看護理論

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専任	教授	大西 文子 <平成28年4月>
		生涯発達看護学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
専任	教授	東野 督子 <平成28年4月>
		看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
専任	教授	山田 聡子 <平成28年4月>
		看護人材開発特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
専任	教授	野口(多賀谷)真弓 <平成28年4月>
		生涯発達看護学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
兼任	教授	筒井 真優美 <平成28年4月>
		看護理論

<日本赤十字広島看護大学>

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		＜就任(予定)年月＞
		担当授業科目名
専任	教授	小山 真理子 ＜平成28年4月＞ 看護人材開発論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
		植田 喜久子 ＜平成28年4月＞ 実践看護学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
専任	教授	眞崎 直子 ＜平成28年4月＞ 広域連携看護学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
		中信 利恵子 ＜平成28年4月＞ 災害救護特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
専任	教授	百田 武司 ＜平成28年4月＞ 実践看護学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
		小原 真理子 ＜平成28年4月＞ 災害救護特論

【平成28年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		＜就任(予定)年月＞
		担当授業科目名
専任	教授	小山 真理子 ＜平成28年4月＞ 看護人材開発論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
		植田 喜久子 ＜平成28年4月＞ 実践看護学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
専任	教授	眞崎 直子 ＜平成28年4月＞ 広域連携看護学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
		中信 利恵子 ＜平成28年4月＞ 災害救護特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
専任	教授	百田 武司 ＜平成28年4月＞ 実践看護学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
		小原 真理子 ＜平成28年4月＞ 災害救護特論

【平成29年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		＜就任(予定)年月＞
		担当授業科目名
専任	教授	小山 真理子 ＜平成28年4月＞ 看護人材開発論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
		植田 喜久子 ＜平成28年4月＞ 実践看護学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
専任	教授	眞崎 直子 ＜平成28年4月＞ 広域連携看護学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
		中信 利恵子 ＜平成28年4月＞ 災害救護特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
専任	教授	百田 武司 ＜平成28年4月＞ 実践看護学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
		小原 真理子 ＜平成28年4月＞ 災害救護特論

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		＜就任(予定)年月＞
		担当授業科目名
専任	教授	小山 真理子 ＜平成28年4月＞ 看護人材開発論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
		植田 喜久子 ＜平成28年4月＞ 実践看護学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
専任	教授	眞崎 直子 ＜平成28年4月＞ 広域連携看護学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
		中信 利恵子 ＜平成28年4月＞ 災害救護特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
専任	教授	百田 武司 ＜平成28年4月＞ 実践看護学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
		小原 真理子 ＜平成28年4月＞ 災害救護特論

<日本赤十字九州看護大学>

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専任	教授	岡村 純 <平成28年4月> 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
専任	教授	小林 裕美 <平成28年4月> 科学的研究方法論Ⅳ (質的研究) 広域連携看護学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
専任	教授	鈴木 清史 <平成28年4月> 科学的研究方法論Ⅴ (文化人類学的研究)
専任	教授	高橋 清美 <平成28年4月> 広域連携看護学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
専任	教授	姫野 稔子 <平成28年4月> 科学的研究方法論Ⅰ (実験研究) 広域連携看護学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
専任	教授	本田 多美枝 <平成28年4月> 看護人材開発特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
専任	教授	柳井 圭子 <平成28年4月> 臨床倫理論 看護人材開発特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
専任	教授	山勢 善江 <平成28年4月> 災害救護特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
専任	教授	乗越 千枝 <平成28年4月> 看護学演習 合同研究ゼミナール

【平成28年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専任	教授	岡村 純 <平成28年4月> 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
専任	教授	小林 裕美 <平成28年4月> 科学的研究方法論Ⅳ (質的研究) 広域連携看護学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
専任	教授	鈴木 清史 <平成28年4月> 科学的研究方法論Ⅴ (文化人類学的研究)
専任	教授	高橋 清美 <平成28年4月> 広域連携看護学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
専任	教授	姫野 稔子 <平成28年4月> 科学的研究方法論Ⅰ (実験研究) 広域連携看護学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
専任	教授	本田 多美枝 <平成28年4月> 看護人材開発特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
専任	教授	柳井 圭子 <平成28年4月> 臨床倫理論 看護人材開発特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
専任	教授	山勢 善江 <平成28年4月> 災害救護特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
専任	教授	乗越 千枝 <平成28年4月> 看護学演習 合同研究ゼミナール

【平成29年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専任	教授	守山 正樹 <平成29年4月> 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
専任	教授	小林 裕美 <平成28年4月> 科学的研究方法論Ⅳ (質的研究) 広域連携看護学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
専任	教授	鈴木 清史 <平成28年4月> 科学的研究方法論Ⅴ (文化人類学的研究)
専任	教授	高橋 清美 <平成28年4月> 広域連携看護学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
専任	教授	姫野 稔子 <平成28年4月> 科学的研究方法論Ⅰ (実験研究) 広域連携看護学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
専任	教授	本田 多美枝 <平成28年4月> 看護人材開発特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
専任	教授	柳井 圭子 <平成28年4月> 臨床倫理論 看護人材開発特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
専任	教授	山勢 善江 <平成28年4月> 災害救護特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
専任	教授	乗越 千枝 <平成28年4月> 看護学演習 合同研究ゼミナール

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専任	教授	守山 正樹 <平成29年4月> 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
専任	教授	小林 裕美 <平成28年4月> 科学的研究方法論Ⅳ (質的研究) 広域連携看護学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
専任	教授	鈴木 清史 <平成28年4月> 科学的研究方法論Ⅴ (文化人類学的研究)
専任	教授	高橋 清美 <平成28年4月> 広域連携看護学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
専任	教授	姫野 稔子 <平成28年4月> 科学的研究方法論Ⅰ (実験研究) 広域連携看護学特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
専任	教授	本田 多美枝 <平成28年4月> 看護人材開発特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
専任	教授	柳井 圭子 <平成28年4月> 臨床倫理論 看護人材開発特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
専任	教授	山勢 善江 <平成28年4月> 災害救護特論 看護学演習 合同研究ゼミナール 特別研究
専任	教授	乗越 千枝 <平成28年4月> 看護学演習 合同研究ゼミナール

- (注) ・ 申請書又は届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 ・ 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
 その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。
 ・ 年齢は、それぞれの年度の5月1日時点の満年齢を記入してください。
 ・ 専任、兼任、兼任の順に記入してください。
 ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度、平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

<日本赤十字北海道看護大学>

【平成28年度】

・西片久美子教授日本赤十字豊田看護大学から日本赤十字北海道看護大学へ移動。申請時の科目は変更なく実施するため支障はない。

【平成29年度】

・山本憲志准教授「AC教員審査」保留により、健康科学特論は「兼任補充可」となる。
・山本憲志准教授「AC教員審査」保留により、「看護学演習」及び「合同研究ゼミナール」の准教授1名削除となる。複数の専任教員（平成29年度：教授24名）が共同で担当するため、専任教員の補充なし。

【平成30年度】

・特になし。

<日本赤十字秋田看護大学>

【平成28年度】

・特になし。

【平成29年度】

・藤井博英教授退職により、山田典子教授に変更。平成28年11月教員審査済。

【平成30年度】

・特になし。

<日本赤十字豊田看護大学>

【平成28年度】

・西片久美子教授日本赤十字豊田看護大学から日本赤十字北海道看護大学へ移動。

【平成29年度】

・特になし。

【平成30年度】

・特になし。

<日本赤十字広島看護大学>

【平成28年度】

・特になし。

【平成29年度】

特になし。

【平成30年度】

・特になし。

<日本赤十字九州国際看護大学>

【平成28年度】

・特になし。

【平成29年度】

・岡村純教授退職により、守山正樹教授を専任教員として新規採用する。平成28年11月教員審査済。

【平成30年度】

・特になし。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
 - ・ 不要な年度（平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2)-① 設置基準上の必要専任教員数

大学名	完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導補助教員数
	日本赤十字北海道看護大学	1 名	1 名
日本赤十字秋田看護大学	1 名	1 名	1 名
日本赤十字豊田看護大学	1 名	1 名	1 名
日本赤十字広島看護大学	1 名	1 名	1 名
日本赤十字九州国際看護大学	1 名	1 名	1 名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2)-② 専任教員数

大学名	設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
	教授	准教授	講師	助教	計(A)	教授	准教授	講師	助教	計(B)	教授	准教授	講師	助教	計(C)
日本赤十字北海道看護大学	5	1	1	0	7	6	0	1	0	7	6	0	1	0	7
	(6)	(1)	(1)	(0)	(8)						[1]	[Δ1]	[0]	[0]	[0]
	研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数		
	2	0	5			3	0	4			3	0	4		
	(3)	(0)	(5)								[1]	[0]	[Δ1]		
日本赤十字秋田看護大学	3	0	0	0	3	3	0	0	0	3	3	0	0	0	3
	(3)	(0)	(0)	(0)	(3)						[1]	[0]	[0]	[0]	[0]
	研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数		
	1	2	0			1	2	0			1	2	0		
	(1)	(2)	(0)								[0]	[0]	[0]		
日本赤十字豊田看護大学	5	0	0	0	5	4	0	0	0	4	4	0	0	0	4
	(4)	(0)	(0)	(0)	(4)						[Δ1]	[0]	[0]	[0]	[Δ1]
	研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数		
	4	1	0			3	1	0			3	1	0		
	(3)	(1)	(0)								[Δ1]	[0]	[0]		
日本赤十字広島看護大学	5	0	0	0	5	5	0	0	0	5	5	0	0	0	5
	(5)	(0)	(0)	(0)	(5)						[0]	[0]	[0]	[0]	[0]
	研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数		
	3	2	0			3	2	0			3	2	0		
	(3)	(2)	(0)								[0]	[0]	[0]		
日本赤十字九州国際看護大学	9	0	0	0	9	9	0	0	0	9	9	0	0	0	9
	(9)	(0)	(0)	(0)	(9)						[9]	[0]	[0]	[0]	[9]
	研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数		
	4	3	2			5	2	2			5	2	2		
	(4)	(3)	(2)								[1]	[Δ1]	[0]		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の完成年度時の計画」には、「現在（報告書提出時）の状況」に記入した数字に、教員審査を早急済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

大学名	年齢構成		
	定年規定の定める 定年年齢 (歳)	報告書提出時 (上 記 (B)) の教員 のうち、定年を延 長して採用してい る教員数	完成年度時 (上記 (C)) の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
日本赤十字北海道看護大学	65 歳	0 名	0 名
日本赤十字秋田看護大学	65 歳	2 名	2 名
日本赤十字豊田看護大学	65 歳	0 名	0 名
日本赤十字広島看護大学	65 歳	1 名	1 名
日本赤十字九州国際看護大学	65 歳	1 名	1 名

- (注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢 (特例等による定年年齢ではありません) 、および、平成30年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
- ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 - ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在(報告書提出時)の完成年度時の計画(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{7}{7} = 100\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 全構成大学の合計値で計算してください。

(2) - ⑤ 現在 (報告書提出時) の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告書提出時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在(報告書提出時)の状況(B)}} = \frac{4}{4} = 100\%$$

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

大学名	番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
日本赤十字北海道看護大学			該当なし							
日本赤十字秋田看護大学			該当なし							
日本赤十字豊田看護大学			該当なし							
日本赤十字広島看護大学			該当なし							
日本赤十字九州国際看護大学			該当なし							
合計 (D)				後任補充状況の集計 (E)						
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

大学名	番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
日本赤十字北海道看護大学								
日本赤十字秋田看護大学								
日本赤十字豊田看護大学								
日本赤十字広島看護大学								
日本赤十字九州国際看護大学								
合計 (F)						後任補充状況の集計 (G)		
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
人								

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および () 書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(3) - ③ 上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計(D) + (F)				後任補充状況の集計(E) + (G)					
辞任等した教員数		担当科目数の合計(a) + (b) + (c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)	
人	必修	科目		必修	科目	必修	科目	必修	科目
	選択	科目		選択	科目	選択	科目	選択	科目
	自由	科目		自由	科目	自由	科目	自由	科目
	計	科目		計	科目	計	科目	計	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計(D)+(F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画(A)}} = \frac{\quad}{\quad} = \boxed{\quad} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
 ・ 全構成大学の合計値で計算してください。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

大学名	番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由		
日本赤十字北海道看護大学									
日本赤十字秋田看護大学									
日本赤十字豊田看護大学									
日本赤十字広島看護大学									
日本赤十字九州国際看護大学									
合計				後任補充状況の集計					
辞任した教員数		担当科目数の合計(a) + (b) + (c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)	
人	必修	科目		必修	科目	必修	科目	必修	科目
	選択	科目		選択	科目	選択	科目	選択	科目
	自由	科目		自由	科目	自由	科目	自由	科目
	計	科目		計	科目	計	科目	計	科目

(注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および()書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

（４）専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

日本赤十字北海道看護大学：
当該年度の科目担当教員がガイダンスやシラバス等で周知している。
履修途中の交代ではないため学生への影響はないと考えられる。

日本赤十字秋田看護大学：
当該年度の科目担当教員がガイダンスやシラバス等で周知している。
履修途中の交代ではないため学生への影響はないと考えられる。

日本赤十字豊田看護大学：
当該年度の科目担当教員がガイダンスやシラバス等で周知している。
履修途中の交代ではないため学生への影響はないと考えられる。

日本赤十字広島看護大学：
当該年度の科目担当教員がガイダンスやシラバス等で周知している。
履修途中の交代ではないため学生への影響はないと考えられる。

日本赤十字九州国際看護大学：
当該年度の科目担当教員がガイダンスやシラバス等で周知している。
履修途中の交代ではないため学生への影響はないと考えられる。

（注）・ 上記（３）の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (28年4月)	1. 共同教育課程を編成・実施することで、「5つの構成大学の教育研究を『融合』させ、シナジー効果を発揮させることができる」としているが、その内容が不明確であるため、各構成大学の強みとする専門分野（専門科目）を明確にし、共同教育課程を編成する必要性について社会一般に対して十分な説明をすること。	留意事項 専門領域を一にする5大学の教員が集合し、複数教員で討議、研鑽することによるシナジー効果を期待できることが、この共同教育課程の「強み」である。 学生には1人の主研究指導教員と残りの4大学から副研究指導教員4名が担当となる。学生の研究テーマに関する同一専門領域、周辺領域の教員が各大学から選出され、学生とともに討議、検討する体制である。異なる大学から同一・周辺領域の教員が集合し、学生のテーマに関して討議することは、単一大学の主指導教員のみでの指導に比較し、学生にとっても研究者である教員にとっても、知的刺激が大きく、教育研究活動により高い効果をもたらす。 また、単一大学の主研究指導教員のみでの指導では、その分野の不足部分や弱点がしばしば認められるが、5大学の教員がそれらを補完・強化し、複数教員の連携にて指導を行うことにより、相乗効果が期待できる。 例えば、人材開発に関する研究テーマを持つ学生の場合、看護の基礎教育を専門とする教員、臨床看護の教育を専門とする教員、卒業後の継続教育を専門とする教員、管理部門での教育を専門とする教員、教育方法を専門とする教員などが5大学から選出され、5名	履行済

			<p>の教授陣による連携・協働での討議、指導を行う。このように看護教育や看護管理領域の複数の研究指導教員の集合体による指導・研究体制は、非常に刺激的で専門領域の課題や研究内容、指導方法や研究方法に関して、充実した教育結果、研究活動の広がりが期待される。</p> <p>このような指導・研究体制であることを平成27年度の広報活動、および平成28年度入試において、5大学共通のパンフレットおよびホームページにて広報し、周知につとめた。広報用パンフレットやホームページでは、所属校の主研究指導教員のほか、各大学から副研究指導教員が選出され、複数の研究指導教員から多角的な視点からの指導が受けられること、5大学の研究指導教員の専門領域・研究内容・研究方法の一覧、複数の教員による指導体制をとること、5大学の教員による補完・強化と相乗効果について説明している。</p> <p>学生に対しては、入試の募集要項や共同看護学専攻のパンフレットだけの周知でなく、入学時のガイダンスにて説明し、5大学の教員・学生が集合しての合同ガイダンス(5月)にて具体的かつ詳細に説明する。</p> <p>(28)</p>	
<p>設置時 (28年4月)</p>	<p>2. 「看護学演習」について、シラバスでは、学生が各担当教員に相談した上で関心のあるテーマに関する演習を行う授業科目とされているが、担当教員の決定方法や指導体制など具体的な授業運営方法が不明確であるため</p>	<p>留意事項</p>	<p>学生の希望に基づき、連絡協議会が、1年次の4月に主研究指導教員を決定し、同年10月には学生の研究課題に応じて、副研究指導教員を決定する。この主研究指導教員および副研究指導教員が「看護学演習」の担当教員となる。さらに、主研究指導教員の要請により、</p>	<p>履行済</p>

、学生に対してあらかじめ十分な説明をすること。

学生の研究テーマに関する同一専門領域、周辺領域の教員ならびに研究方法を熟知した教員を「看護学演習」の担当教員に加える。複数の教員間の調整は、責任教員である主研究指導教員が担う。

当該科目を博士論文の準備段階として位置づけ、1年次前期は、主研究指導教員となる担当教員の指導を受けながら課題に関する研究論文のレビューなどから研究課題を絞り込む。1年次後期には、副研究指導教員の役割を担える複数の担当教員の支援を得ながら、研究課題に応じた研究デザインおよび研究方法を検討する。さらに、主研究指導教員の要請により、学生の研究テーマに関する同一専門領域、周辺領域の教員ならびに研究方法を熟知した教員の指導を受けることができる。このような教員と副研究指導教員から助言を得ながら責任者である主研究指導教員を中心に複数の教員が学生の指導にあたる。なお、専任教員には、連絡協議会を通して「看護学演習」に関する上述の内容について説明することで対応している。

学生には、①「主研究指導教員の指導により当該年度に履修する授業科目を決定すること」を共同看護学専攻履修の手引きに明記し、②各構成大学の新生ガイダンスおよび合同ガイダンスにて「看護学演習」のすすめ方に関する説明と、③主研究指導教員による「看護学演習」のすすめ方の指導により説明を行うことで対応している。

(28)

<p>設置時 (28年4月)</p>	<p>3. テレビ会議システムを活用して遠隔授業を実施するに際しては、システム上の問題が生じないよう万全を期すことはもとより、支障事例をあらかじめ想定して速やかに対処できる体制を構築しておくことが、面接による授業形態と同等の質を確保する上で重要である。今後、テレビ会議システムを活用した授業の適切な管理について十分な検討をし、面接による授業との同等性の確保に向けて最大限の努力をすること。併せて、テレビ会議システムを活用することに伴い、学生に対するICTリテラシーについて教育することが望ましい。</p>	<p>留意事項</p>	<p>本システムは、NTTビズリング（株）が提供しているフレッツIP多地点サービスによるクラウド型テレビ会議システムであり、NTTのIP網だけで構築され、インターネット回線を経由しないことから高いセキュリティと安定した品質が確保されている。また、本システムの円滑な運用のため、システム導入時に各大学に教員1名及び事務職員1名のシステム担当者置き、NTTビズリング（株）から運用操作説明及び維持管理に必要な説明を受け、学内の他の教職員への指導にあたってきた。加えて、トラブル対応としては、同社との保守契約により、平日、休日とも「テレビ会議ネットワークオペレーションセンター」へ電話連絡することで、設備の管理、会議設定や運用、機器操作等が対処される、フルサポート体制をとっている。</p> <p>また、必要に応じて、同社の専門スタッフによるリモート操作での調整等も可能である。</p> <p>さらに、重要度の高い授業等の場合には同センターに事前連絡することにより、専門スタッフの重点監視体制をとり、即時の対応も可能である。</p> <p>また、平成28年3月に、全構成大学の教務担当職員を主体に機器操作手順に関する遠隔授業のシミュレーションを実施し、サポート体制の充実を図っている。</p> <p>学生に対しては、①テレビ会議システム機器操作手順マニュアルを作成および配付し、②各構成</p>	<p>履行済</p>	
------------------------	--	-------------	--	------------	--

			<p>大学の新生ガイダンスで説明を行っている。さらに、テレビ会議システムを用いた遠隔授業の開講前に開催する。③合同ガイダンス（5月21日10:40～）にて、構成大学の全学生を対象に、機器操作手順に関する遠隔授業のシミュレーションを行うことで、学生がテレビ会議システムの操作方法に慣れるよう、学生のICTリテラシーの向上に向けて取り組む予定である。(28)</p> <p>これまでテレビ会議システムの故障により授業が開講できなかったという事例は発生していないが、29年度からテレビ会議システムを全構成大学で増設し、遠隔教育システムの整備充実を図った。また、テレビ会議システムに関する学生への説明については前年と同様の内容、時期に実施する。(29)</p> <p>テレビ会議システムの増設に対応し、予約や利用状況が共有できる「スケジュール共有ツール（NTTビズリング(株)提供）」を導入することで、利便性の向上を図った。</p> <p>また、テレビ会議システムに関する学生への説明については前年度と同様の内容、時期に実施する。(30)</p>		
設置計画履行状況 調査時 (29年2月)	意見なし				
設置計画履行状況 調査時 (30年2月)	同一設置者が設置する既設学部等（日本赤十字秋田短期大学 介護福祉学科）の定員充足率の平均が0.7倍	改善意見	日本赤十字秋田短期大学介護福祉学科の入学定員については、平成30年度から50名から30名に減ずる旨、平成29年6月	履行済	

	未滿となっていることから、学生確保に努めるとともに、入学定員の見直しについて検討すること。		22日付けで文部科学省へ届出済みである。(30) 【別添7】		
--	---	--	-----------------------------------	--	--

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、当該大学に付された意見を全て記入するとともに、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行途中であれば「未履行」、履行済みであれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

7 その他全般的事項

(1) 設置計画変更事項等

<日本赤十字北海道看護大学>

設置時の計画	変更内容・状況, 今後の見通しなど
該当なし	

<日本赤十字秋田看護大学>

設置時の計画	変更内容・状況, 今後の見通しなど
該当なし	

<日本赤十字豊田看護大学>

設置時の計画	変更内容・状況, 今後の見通しなど
該当なし	

<日本赤十字広島看護大学>

設置時の計画	変更内容・状況, 今後の見通しなど
①大学院専用（修士課程と共用）の施設を整備した。 a 教員研究室 2室 b 大学院情報処理室 1室 c 大学院共同研究室 2室 d 講義に利用する演習室 6室	①学生の修学環境を改善するため看護学研究科共同看護学専攻専用の研究室を確保し、情報処理パソコンを室内に設置した。 大学全体の教室等の変更を行い、講義に利用する演習室は大学全体で共用しているが、修学環境には影響しない。 a 大学院研究室（博士課程） 2室 b 大学院研究室（博士課程） 3室 c 講義に利用する演習室 6室 【別添1】 【別添2】

<日本赤十字九州国際看護大学>

設置時の計画	変更内容・状況, 今後の見通しなど
①大学院専用（修士課程と共用）の施設を整備した。 a 講義室 2室 b 院生研究室 3室	①学生の修学環境を改善するため看護学研究科（修士課程と共用）専用の施設を整備した。 a 博士課程共同研究室 1室 b 修士課程共同研究室 1室 c 講義室 1室 【別添3】 【別添4】 【別添5】 【別添6】

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<日本赤十字北海道看護大学>

① 実施体制

a 委員会の設置状況

- ・共同看護学専攻連絡協議会【別添8】

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

- ・共同看護学専攻の専攻長、各構成大学の研究科長、各構成大学から選出された共同看護学専攻の専任教員2名で構成される「共同看護学専攻連絡協議会」を月1回開催し、全体協議、進捗状況の確認、各専門委員会付託事項の議論、整理等を行っている。

c 委員会の審議事項等

- ・上記(b)のとおり専門委員会で検討するほか、以下の内容については共同看護学専攻連絡協議会で審議する。

- ①各構成大学において開設する授業科目及びこれに係る教員の配置など共同教育課程の編成及び実施に関する基本的事項
- ②研究指導教員の選定に関する事項
- ③入学者選抜の方針及び実施計画に関する事項
- ④学生の身分の取扱い及び厚生補導に関する事項
- ⑤成績評価の方針に関する事項
- ⑥学位審査委員会の設置に関する事項
- ⑦学位の授与及び課程修了の認定に関する事項
- ⑧教育研究活動等の状況の評価に関する事項
- ⑨予算に関する事項
- ⑩広報に関する事項
- ⑪自己点検・評価に関する事項
- ⑫FD・SDの推進に関する事項
- ⑬その他構成大学が必要と認めた事項

② 実施状況

a 実施内容

- ・遠隔授業を行うテレビ会議システムに関するFD・SD研修会を各年度の5月に実施した。本年度も同時期に実施する。

b 実施方法

- ・共同看護学専攻連絡協議会は、本学園専用のひかり回線で結ぶテレビ会議システムにより構成大学間を結んで開催している。
- ・FD研修については、協力校である日本赤十字看護大学（東京・渋谷区）へ参集して実施すると同時に、遠隔授業を行うテレビ会議システムでも各大学に中継する。また、研修内容は録画し、参加出来なかった教員に共有できるようにしている。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・各構成大学の専任教員及び授業担当教員、また、本教育課程に関わる事務職員が研修会に参加する。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・FD研修については、共同看護学専攻連絡協議会において参加者へのインタビューを実施し、結果を分析、検討のうえ、対応策を協議する。
- ・対応策については、共同看護学専攻連絡協議会の委員をとおして構成大学に周知し、改善に取り組む。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

- ・授業評価アンケートを28年度末に1回、29年度は前期・後期で1回ずつ実施した。本年度も前期・後期に実施する。

b 教員や学生への公開状況、方法等

- ・毎年、各期の授業評価アンケートを共同看護学専攻教務委員会にて集計・分析し対応策を協議する。
- ・その対応策を共同看護学専攻連絡協議会で協議のうえ、構成大学全体で改善に取り組む。
- ・また、アンケートの結果や対応策等については、各大学のホームページで公表するとともに学生・教員等に説明を行う。

<日本赤十字秋田看護大学>

① 実施体制

a 委員会の設置状況

- ・共同看護学専攻連絡協議会【別添8】

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

- ・共同看護学専攻の専攻長、各構成大学の研究科長、各構成大学から選出された共同看護学専攻の専任教員2名で構成される「共同看護学専攻連絡協議会」を月1回開催し、全体協議、進捗状況の確認、各専門委員会付託事項の議論、整理等を行っている。

c 委員会の審議事項等

- ・上記(b)のとおり専門委員会で検討するほか、以下の内容については共同看護学専攻連絡協議会で審議する。

- ①各構成大学において開設する授業科目及びこれに係る教員の配置など共同教育課程の編成及び実施に関する基本的事項
- ②研究指導教員の選定に関する事項
- ③入学者選抜の方針及び実施計画に関する事項
- ④学生の身分の取扱い及び厚生補導に関する事項
- ⑤成績評価の方針に関する事項
- ⑥学位審査委員会の設置に関する事項
- ⑦学位の授与及び課程修了の認定に関する事項
- ⑧教育研究活動等の状況の評価に関する事項
- ⑨予算に関する事項
- ⑩広報に関する事項
- ⑪自己点検・評価に関する事項
- ⑫FD・SDの推進に関する事項
- ⑬その他構成大学が必要と認めた事項

② 実施状況

a 実施内容

- ・遠隔授業を行うテレビ会議システムに関するFD・SD研修会を各年度の5月に実施した。本年度も同時期に実施する。

b 実施方法

- ・共同看護学専攻連絡協議会は、本学園専用のひかり回線で結ぶテレビ会議システムにより構成大学間を結んで開催している。
- ・FD研修については、協力校である日本赤十字看護大学（東京・渋谷区）へ参集して実施すると同時に、遠隔授業を行うテレビ会議システムでも各大学に中継する。また、研修内容は録画し、参加出来なかった教員に共有できるようにしている。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・各構成大学の専任教員及び授業担当教員、また、本教育課程に関わる事務職員が研修会に参加する。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・FD研修については、共同看護学専攻連絡協議会において参加者へのインタビューを実施し、結果を分析、検討のうえ、対応策を協議する。
- ・対応策については、共同看護学専攻連絡協議会の委員をとおして構成大学に周知し、改善に取り組む。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

- ・授業評価アンケートを28年度末に1回、29年度は前期・後期で1回ずつ実施した。本年度も前期・後期に実施する。

- b 教員や学生への公開状況、方法等
- ・毎年、各期の授業評価アンケートを共同看護学専攻教務委員会にて集計・分析し対応策を協議する。
 - ・その対応策を共同看護学専攻連絡協議会で協議のうえ、構成大学全体で改善に取り組む。
 - ・また、アンケートの結果や対応策等については、各大学のホームページで公表するとともに学生・教員等に説明を行う。

<日本赤十字豊田看護大学>

① 実施体制

a 委員会の設置状況

- ・共同看護学専攻連絡協議会【別添8】

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

- ・共同看護学専攻の専攻長、各構成大学の研究科長、各構成大学から選出された共同看護学専攻の専任教員2名で構成される「共同看護学専攻連絡協議会」を月1回開催し、全体協議、進捗状況の確認、各専門委員会付託事項の議論、整理等を行っている。

c 委員会の審議事項等

- ・上記(b)のとおり専門委員会で検討するほか、以下の内容については共同看護学専攻連絡協議会で審議する。

- ①各構成大学において開設する授業科目及びこれに係る教員の配置など共同教育課程の編成及び実施に関する基本的事項
- ②研究指導教員の選定に関する事項
- ③入学者選抜の方針及び実施計画に関する事項
- ④学生の身分の取扱い及び厚生補導に関する事項
- ⑤成績評価の方針に関する事項
- ⑥学位審査委員会の設置に関する事項
- ⑦学位の授与及び課程修了の認定に関する事項
- ⑧教育研究活動等の状況の評価に関する事項
- ⑨予算に関する事項
- ⑩広報に関する事項
- ⑪自己点検・評価に関する事項
- ⑫FD・SDの推進に関する事項
- ⑬その他構成大学が必要と認めた事項

② 実施状況

a 実施内容

- ・遠隔授業を行うテレビ会議システムに関するFD・SD研修会を各年度の5月に実施した。本年度も同時期に実施する。

b 実施方法

- ・共同看護学専攻連絡協議会は、本学園専用のひかり回線で結ぶテレビ会議システムにより構成大学間を結んで開催している。
- ・FD研修については、協力校である日本赤十字看護大学（東京・渋谷区）へ参集して実施すると同時に、遠隔授業を行うテレビ会議システムでも各大学に中継する。また、研修内容は録画し、参加出来なかった教員に共有できるようにしている。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・各構成大学の専任教員及び授業担当教員、また、本教育課程に関わる事務職員が研修会に参加する。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・FD研修については、共同看護学専攻連絡協議会において参加者へのインタビューを実施し、結果を分析、検討のうえ、対応策を協議する。
- ・対応策については、共同看護学専攻連絡協議会の委員をとおして構成大学に周知し、改善に取り組む。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

- ・授業評価アンケートを28年度末に1回、29年度は前期・後期で1回ずつ実施した。本年度も前期・後期に実施する。

b 教員や学生への公開状況，方法等

- ・毎年、各期の授業評価アンケートを共同看護学専攻教務委員会にて集計・分析し対応策を協議する。
- ・その対応策を共同看護学専攻連絡協議会で協議のうえ、構成大学全体で改善に取り組む。
- ・また、アンケートの結果や対応策等については、各大学のホームページで公表するとともに学生・教員等に説明を行う。

<日本赤十字広島看護大学>

① 実施体制

a 委員会の設置状況

- ・共同看護学専攻連絡協議会【別添8】

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

- ・共同看護学専攻の専攻長、各構成大学の研究科長、各構成大学から選出された共同看護学専攻の専任教員2名で構成される「共同看護学専攻連絡協議会」を月1回開催し、全体協議、進捗状況の確認、各専門委員会付託事項の議論、整理等を行っている。

c 委員会の審議事項等

- ・上記(b)のとおり専門委員会で検討するほか、以下の内容については共同看護学専攻連絡協議会で審議する。

- ①各構成大学において開設する授業科目及びこれに係る教員の配置など共同教育課程の編成及び実施に関する基本的事項
- ②研究指導教員の選定に関する事項
- ③入学者選抜の方針及び実施計画に関する事項
- ④学生の身分の取扱い及び厚生補導に関する事項
- ⑤成績評価の方針に関する事項
- ⑥学位審査委員会の設置に関する事項
- ⑦学位の授与及び課程修了の認定に関する事項
- ⑧教育研究活動等の状況の評価に関する事項
- ⑨予算に関する事項
- ⑩広報に関する事項
- ⑪自己点検・評価に関する事項
- ⑫FD・SDの推進に関する事項
- ⑬その他構成大学が必要と認めた事項

② 実施状況

a 実施内容

- ・遠隔授業を行うテレビ会議システムに関するFD・SD研修会を各年度の5月に実施した。本年度も同時期に実施する。

b 実施方法

- ・共同看護学専攻連絡協議会は、本学園専用のひかり回線で結ぶテレビ会議システムにより構成大学間を結んで開催している。
- ・FD研修については、協力校である日本赤十字看護大学（東京・渋谷区）へ参集して実施すると同時に、遠隔授業を行うテレビ会議システムでも各大学に中継する。また、研修内容は録画し、参加出来なかった教員に共有できるようにしている。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・各構成大学の専任教員及び授業担当教員、また、本教育課程に関わる事務職員が研修会に参加する。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・FD研修については、共同看護学専攻連絡協議会において参加者へのインタビューを実施し、結果を分析、検討のうえ、対応策を協議する。
- ・対応策については、共同看護学専攻連絡協議会の委員をとおして構成大学に周知し、改善に取り組む。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

- ・授業評価アンケートを28年度末に1回、29年度は前期・後期で1回ずつ実施した。本年度も前期・後期に実施する。

b 教員や学生への公開状況、方法等

- ・毎年、各期の授業評価アンケートを共同看護学専攻教務委員会にて集計・分析し対応策を協議する。
- ・その対応策を共同看護学専攻連絡協議会で協議のうえ、構成大学全体で改善に取り組む。
- ・また、アンケートの結果や対応策等については、各大学のホームページで公表するとともに学生・教員等に説明を行う。

<日本赤十字九州国際看護大学>

① 実施体制

a 委員会の設置状況

- ・共同看護学専攻連絡協議会【別添8】

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

- ・共同看護学専攻の専攻長、各構成大学の研究科長、各構成大学から選出された共同看護学専攻の専任教員2名で構成される「共同看護学専攻連絡協議会」を月1回開催し、全体協議、進捗状況の確認、各専門委員会付託事項の議論、整理等を行っている。

c 委員会の審議事項等

- ・上記(b)のとおり専門委員会で検討するほか、以下の内容については共同看護学専攻連絡協議会で審議する。

- ①各構成大学において開設する授業科目及びこれに係る教員の配置など共同教育課程の編成及び実施に関する基本的事項
- ②研究指導教員の選定に関する事項
- ③入学者選抜の方針及び実施計画に関する事項
- ④学生の身分の取扱い及び厚生補導に関する事項
- ⑤成績評価の方針に関する事項
- ⑥学位審査委員会の設置に関する事項
- ⑦学位の授与及び課程修了の認定に関する事項
- ⑧教育研究活動等の状況の評価に関する事項
- ⑨予算に関する事項
- ⑩広報に関する事項
- ⑪自己点検・評価に関する事項
- ⑫FD・SDの推進に関する事項
- ⑬その他構成大学が必要と認めた事項

② 実施状況

a 実施内容

- ・**遠隔授業を行うテレビ会議システムに関するFD・SD研修会を各年度の5月に実施した。本年度も同時期に実施する。**

b 実施方法

- ・共同看護学専攻連絡協議会は、本学園専用のひかり回線で結ぶテレビ会議システムにより構成大学間を結んで開催している。
- ・FD研修については、協力校である日本赤十字看護大学（東京・渋谷区）へ参集して実施すると同時に、遠隔授業を行うテレビ会議システムでも各大学に中継する。また、研修内容は録画し、参加出来なかった教員に共有できるようにしている。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・各構成大学の専任教員及び授業担当教員、また、本教育課程に関わる事務職員が研修会に参加する。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・FD研修については、共同看護学専攻連絡協議会において参加者へのインタビューを実施し、結果を分析、検討のうえ、対応策を協議する。
- ・対応策については、共同看護学専攻連絡協議会の委員をとおして構成大学に周知し、改善に取り組む。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

- ・授業評価アンケートを28年度末に1回、29年度は前期・後期で1回ずつ実施した。
本年度も前期・後期に実施する。

b 教員や学生への公開状況、方法等

- ・毎年、各期の授業評価アンケートを共同看護学専攻教務委員会にて集計・分析し対応策を協議する。
- ・その対応策を共同看護学専攻連絡協議会で協議のうえ、構成大学全体で改善に取り組む。
- ・また、アンケートの結果や対応策等については、各大学のホームページで公表するとともに学生・教員等に説明を行う。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 自己点検・評価等に関する事項

<日本赤十字北海道看護大学>

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

自己点検・評価委員会、連絡協議会で検討し、各大学で実施する。

② 自己点検・評価報告書

a 公表(予定)時期

平成28年度分の報告書については、平成29年12月公表済。

平成29年度分の報告書については、平成30年12月末までに公表予定。

平成30年度分の報告書については、平成31年12月末までに公表予定。

b 公表方法

大学ホームページ上に公開予定。

③ 認証評価を受ける計画

平成26年度に(公財)大学基準協会による認証評価を受審し、認証を受けた(平成27年3月)。

平成33年度に(公財)大学基準協会による評価を受審予定。

<日本赤十字秋田看護大学>

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

自己点検・評価委員会、連絡協議会で検討し、各大学で実施する。

② 自己点検・評価報告書

a 公表(予定)時期

平成28年度分の報告書については、平成29年12月に公表済。

平成29年度分の報告書については、平成30年12月末までに公表予定。

平成30年度分の報告書については、平成31年12月末までに公表予定。

b 公表方法

大学ホームページに公開予定

③ 認証評価を受ける計画

平成34年度に(公財)大学基準協会による評価を受審予定。

<日本赤十字豊田看護大学>

- ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見
自己点検・評価委員会、連絡協議会で検討し、各大学で実施する。
- ② 自己点検・評価報告書
 - a 公表（予定）時期
 - ・平成28年度分の報告書については、平成29年8月末に公表済。
 - ・平成29年度分の報告書については、平成30年8月末までに公表予定。
 - b 公表方法
大学ホームページ上に公開予定。（平成30年8月末）
- ③ 認証評価を受ける計画
 - ・平成29年度に評価機関である（公財）大学基準協会の評価を受けた。
 - ・2025年度（公財）大学基準協会による評価を受審予定。

<日本赤十字広島看護大学>

- ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見
自己点検・評価委員会、連絡協議会で検討し、各大学で実施する。
- ② 自己点検・評価報告書
 - a 公表（予定）時期
平成28年度分の報告書については、平成29年6月末までに公表済。
平成29年度分の報告書については、平成30年6月末までに公表予定。
平成30年度分の報告書については、平成31年6月末までに公表予定。
 - b 公表方法
大学ホームページに公開予定
- ③ 認証評価を受ける計画
平成27年度に（公財）大学基準協会の認証評価を受審した。
学部等の認証評価に併せて、平成34年度に第三者評価を受審予定。

<日本赤十字九州国際看護大学>

- ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見
自己点検・評価委員会、連絡協議会で検討し、各大学で実施する。
- ② 自己点検・評価報告書
- a 公表（予定）時期
平成28年度分の報告書については、平成29年8月に公表済。
平成29年度分の報告書については、平成30年6月末までに公表予定。
平成30年度分の報告書については、平成31年6月末までに公表予定。
- b 公表方法
大学ホームページに公表予定
- ③ 認証評価を受ける計画
平成27年度に（公財）大学基準協会による認証評価を受審し、認証を受けた。
学部等の受審評価に併せて、平成34年度に第三者評価を受審予定。

- （注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

<日本赤十字北海道看護大学>

○ 設置計画履行状況報告書

- a ホームページに公表（予定）の有無 (有 ・ 無)
29年度分は掲載済。
- b 公表（予定）有の場合の公表（予定）時期 (30年 6月 29日)

<日本赤十字秋田看護大学>

○ 設置計画履行状況報告書

- a ホームページに公表（予定）の有無 (有 ・ 無)
29年度分は掲載済。
- b 公表（予定）有の場合の公表（予定）時期 (30年 6月 29日)

<日本赤十字豊田看護大学>

○ 設置計画履行状況報告書

- a ホームページに公表（予定）の有無 (有 ・ 無)
29年度分は掲載済。
- b 公表（予定）有の場合の公表（予定）時期 (30年 6月 29日)

<日本赤十字広島看護大学>

○ 設置計画履行状況報告書

- a ホームページに公表（予定）の有無 (有 ・ 無)
29年度分は掲載済。
- b 公表（予定）有の場合の公表（予定）時期 (30年 6月 29日)

<日本赤十字九州国際看護大学>

○ 設置計画履行状況報告書

- a ホームページに公表（予定）の有無 (有 ・ 無)
29年度分は掲載済。
- b 公表（予定）有の場合の公表（予定）時期 (30年 6月 29日)

- (注) ・ 「a ホームページに公表（予定）有無」には、5月1日時点で公表している場合、もしくは、今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。
- ・ 「b 公表（予定）有の場合の公表（予定）時期」には、「a ホームページに公表（予定）有無」で「有」にマルを記入した場合のみ、時期を記入してください。

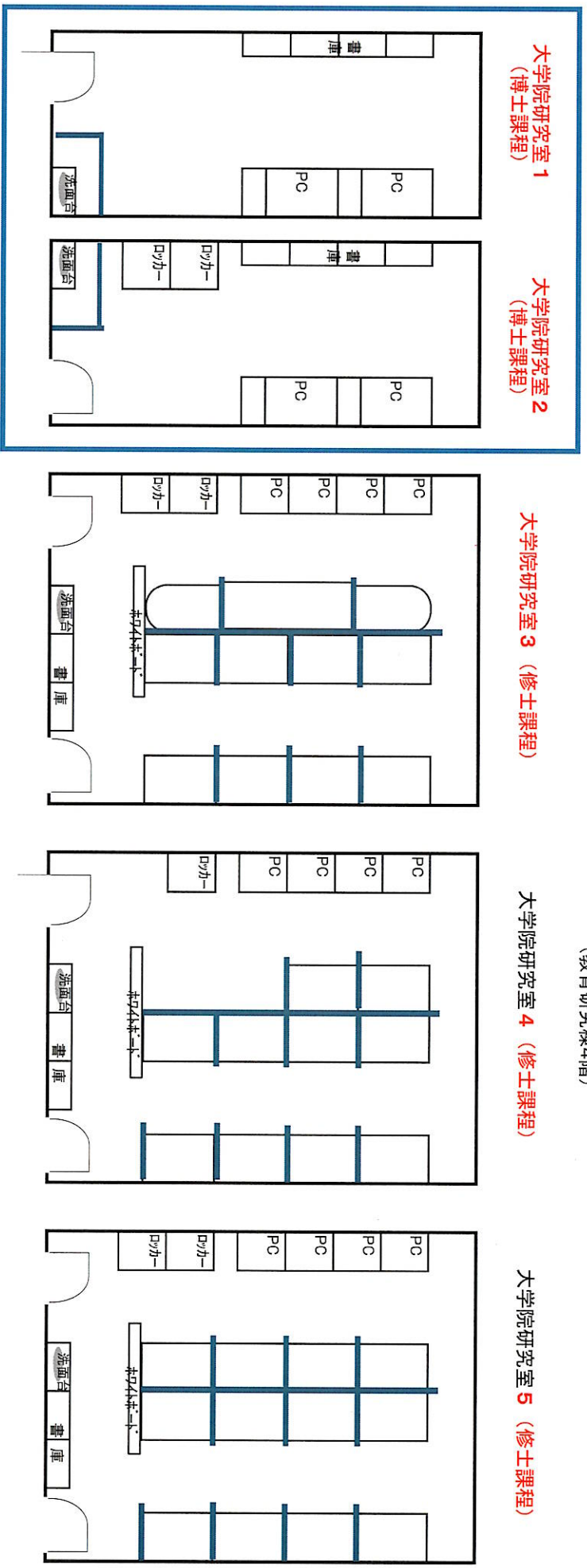
「7. その他全般的事項」の資料目次

- 別添1 日本赤十字広島看護大学 大学院生研究室の配置図
- 別添2 日本赤十字広島看護大学 校舎の平面図
- 別添3 日本赤十字九州国際看護大学 大学院生研究室の配置図
- 別添4 日本赤十字九州国際看護大学 校舎の平面図
- 別添5 日本赤十字九州国際看護大学 校舎の平面図
- 別添6 日本赤十字九州国際看護大学 校舎の全体図
- 別添7 日本赤十字秋田短期大学収容定員学則変更届出書
- 別添8 大学院看護学研究科共同看護学専攻連絡協議会規程

日本赤十字広島看護大学 大学院生研究室の配置図

変更箇所...赤字 (室名)
看護学研究科共同看護学専攻 専用の研究室...青枠

(教育研究棟4階)

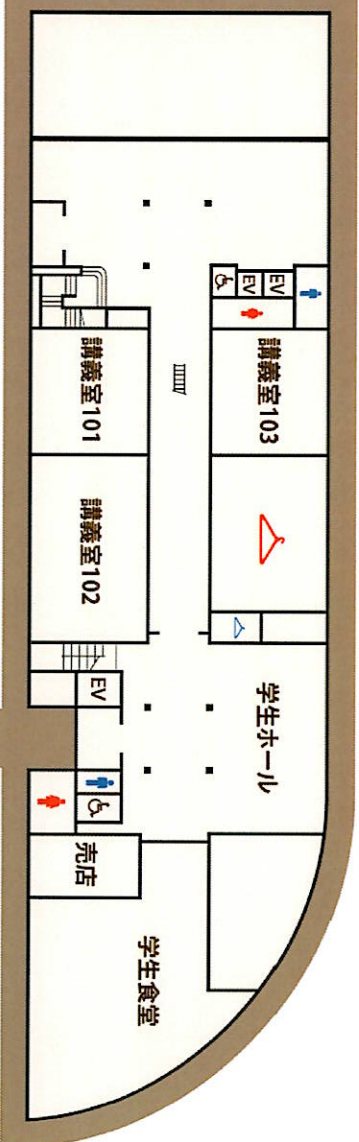


1階

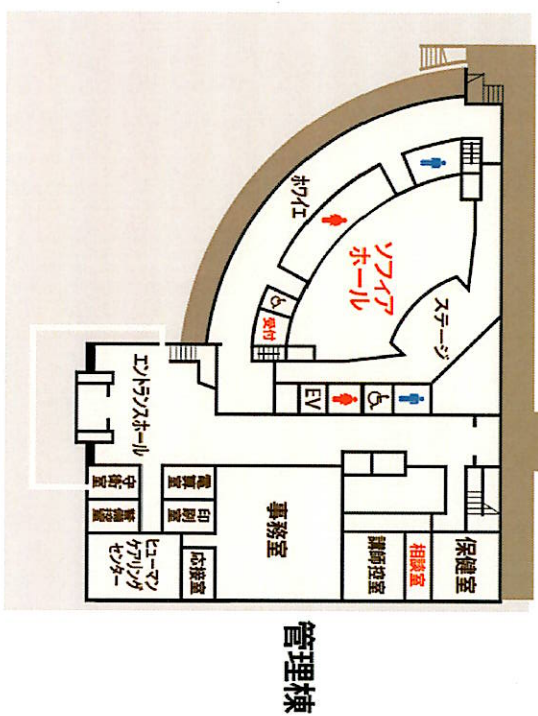
変更箇所…赤字 (室名)

別添 2

教育研究棟



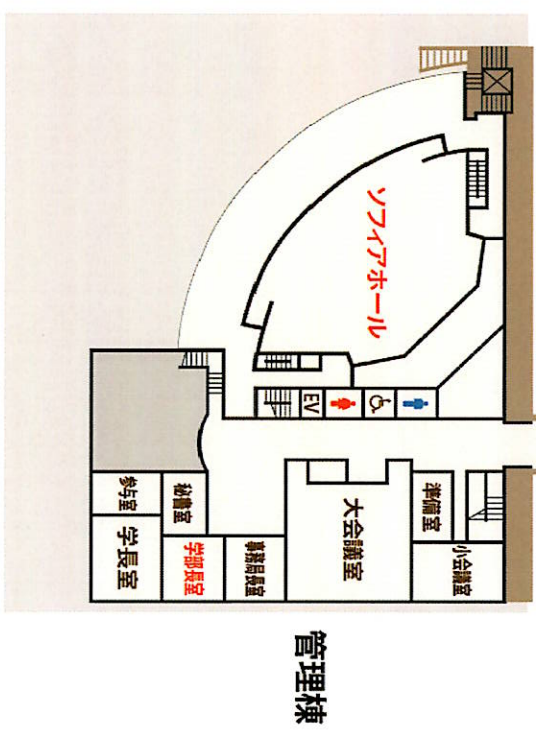
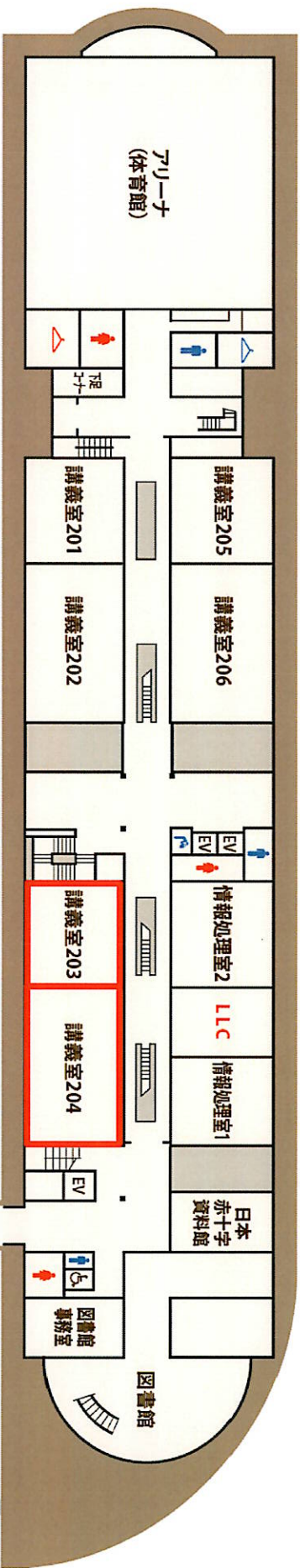
	教育研究棟	管理棟
4階	研究科長室 研究室 助教・助手研究室 演習室 大学院研究室 認定看護師教育課程教員室 エルテナスホール	
3階	看護実習室1～4 講義室301 看護シミュレーションセンター 実験室 多目的室 図書館 学生クラブ室 ネットルーム	
2階	フリーナ 情報処理室1・2 講義室201～206 Language Learning Center (LLC) 図書館 日本赤十字資料館	学長室 学部長室 事務局長室 ソフトホール 大会議室 小会議室
1階	講義室101～103 学生食堂	ヒューマンアカリソグセンター 事務室 ソフトホール 相談室 保健室



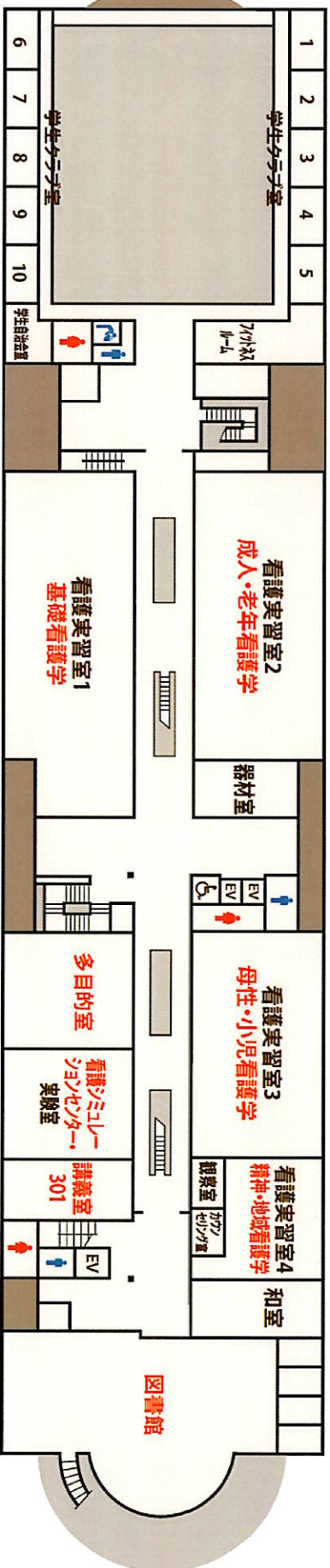
2階

教育研究棟

変更箇所…赤字 (室名)
看護学研究科共同看護学専攻で主に使用する講義室…赤枠



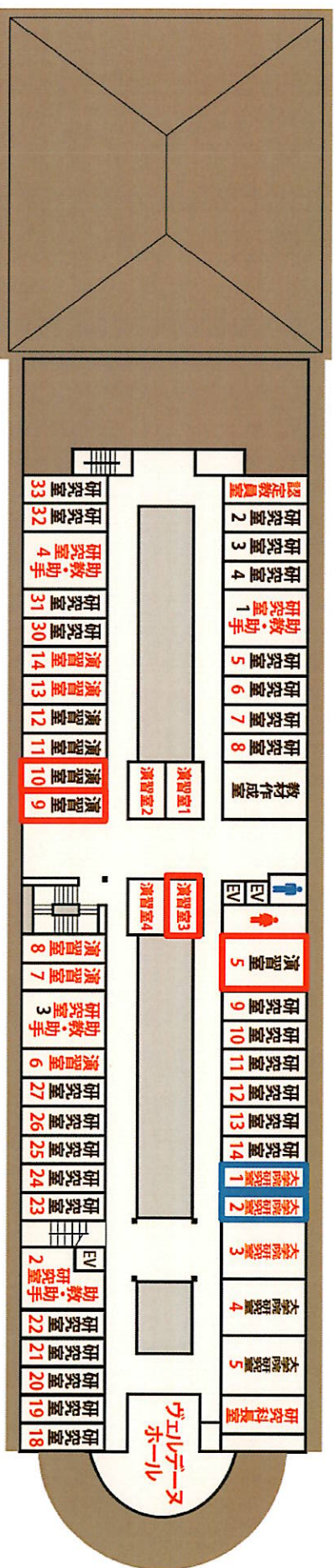
3階



教育研究棟

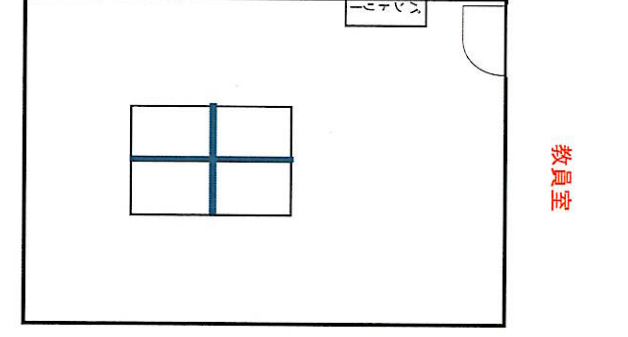
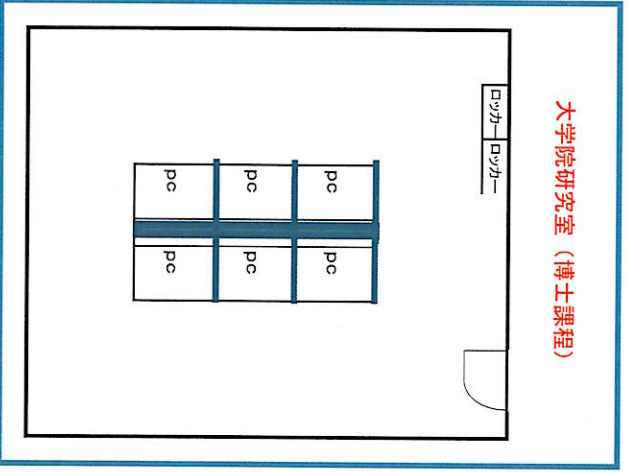
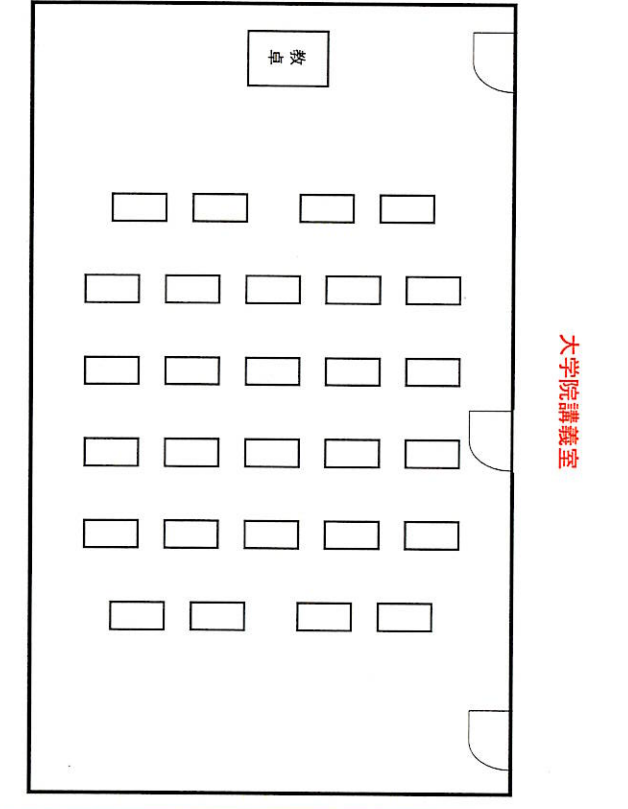
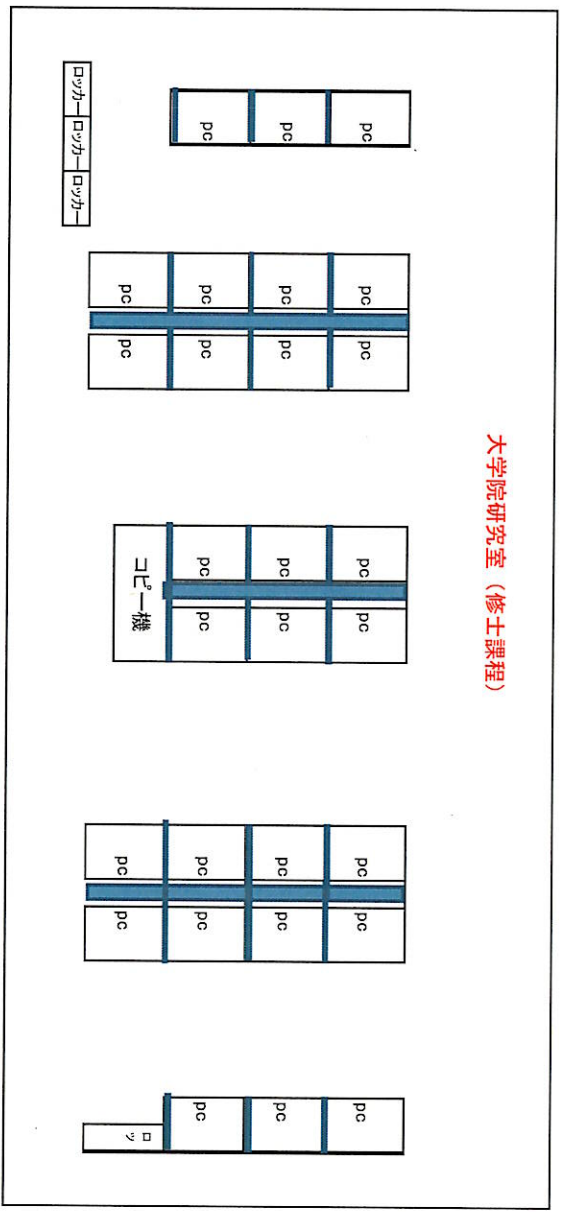
変更箇所…赤字 (室名)
看護学研究科共同看護学専攻で主に使用する講義室…赤枠
看護学研究科共同看護学専攻 専用の研究室…青枠

4階

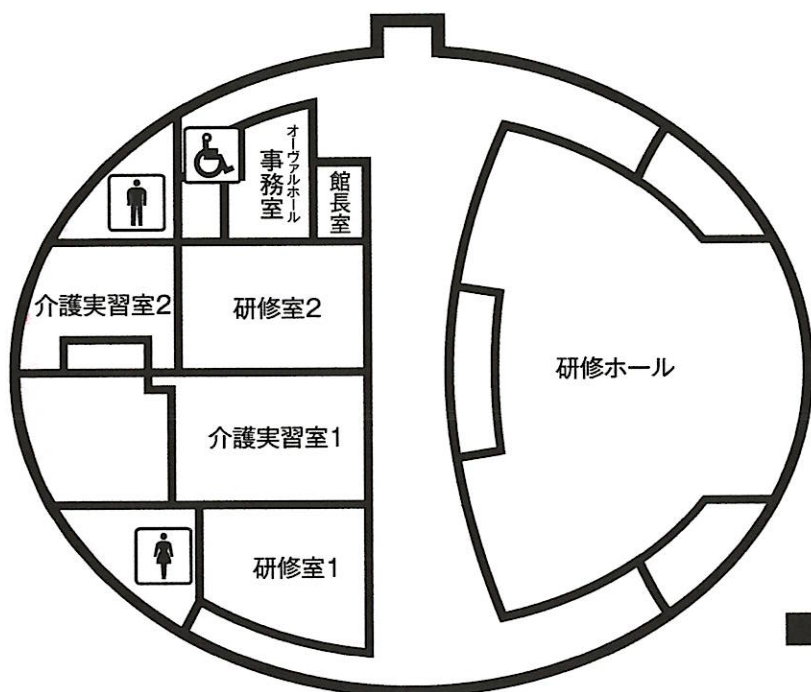
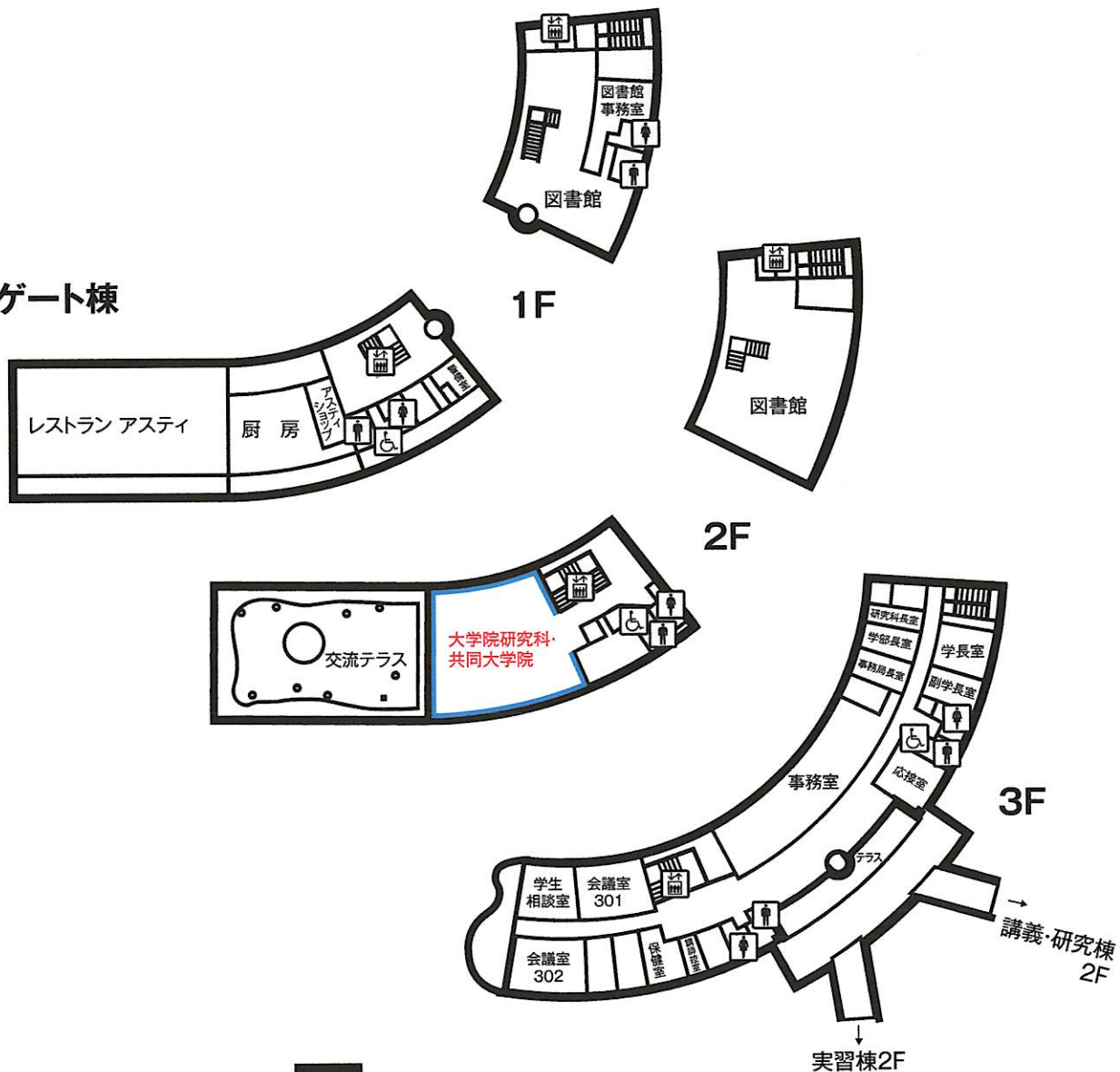


教育研究棟

変更箇所...赤字 (室名)
看護学研究科共同看護学専攻 専用の研究室...青枠

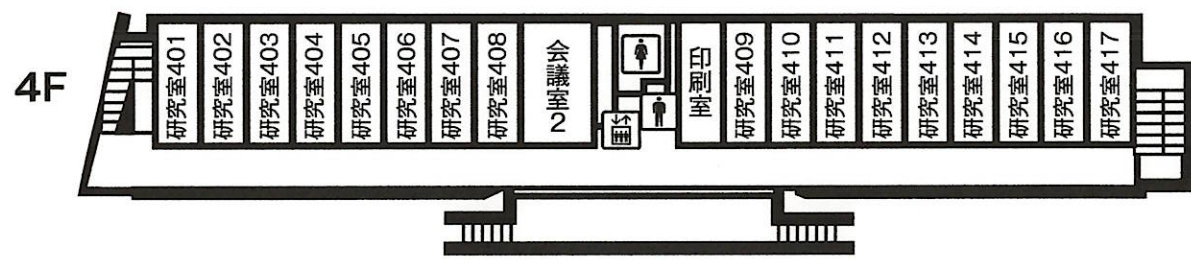
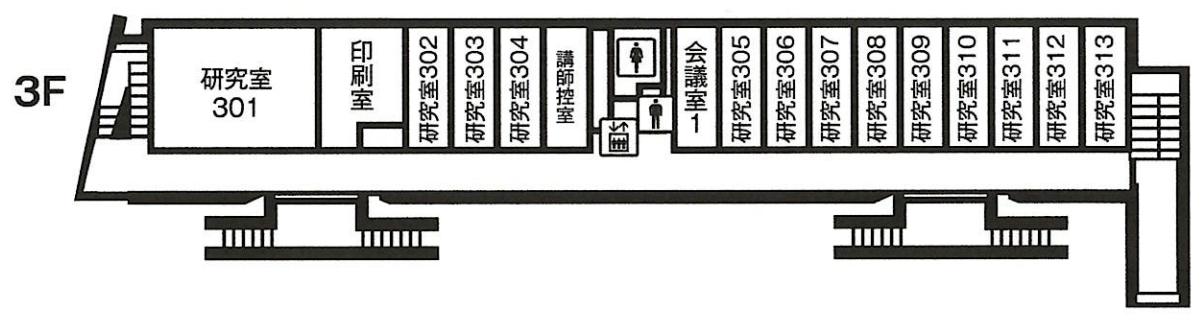
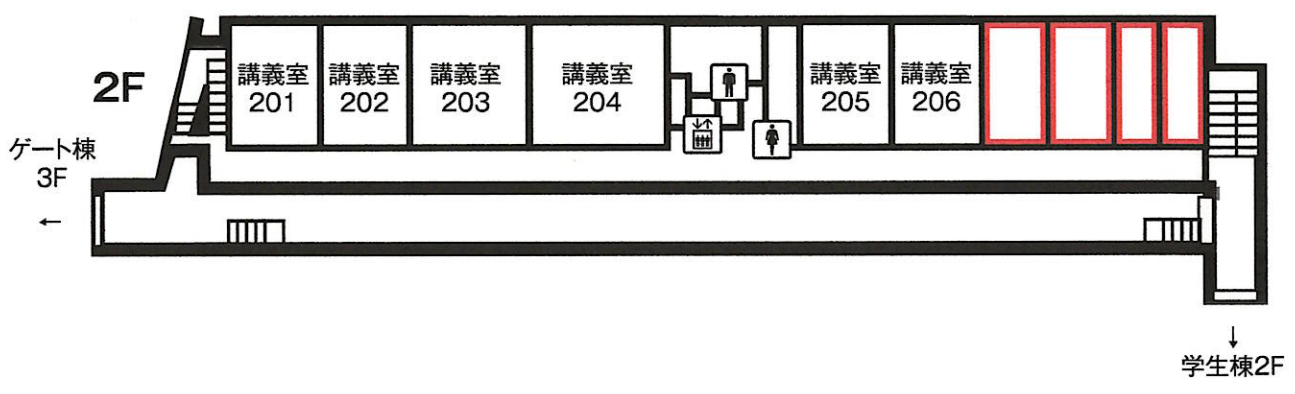
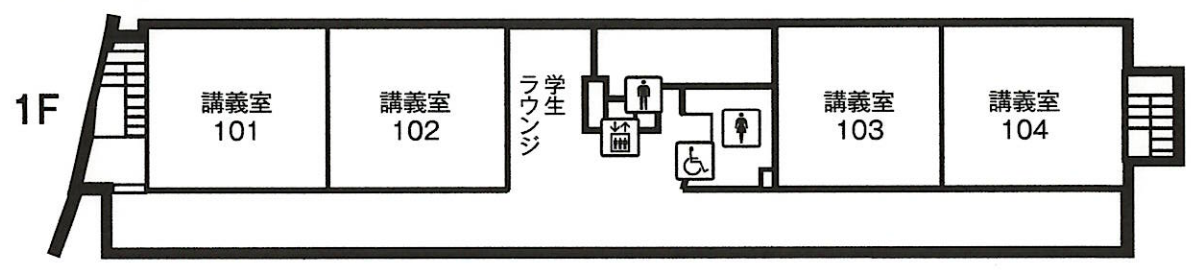


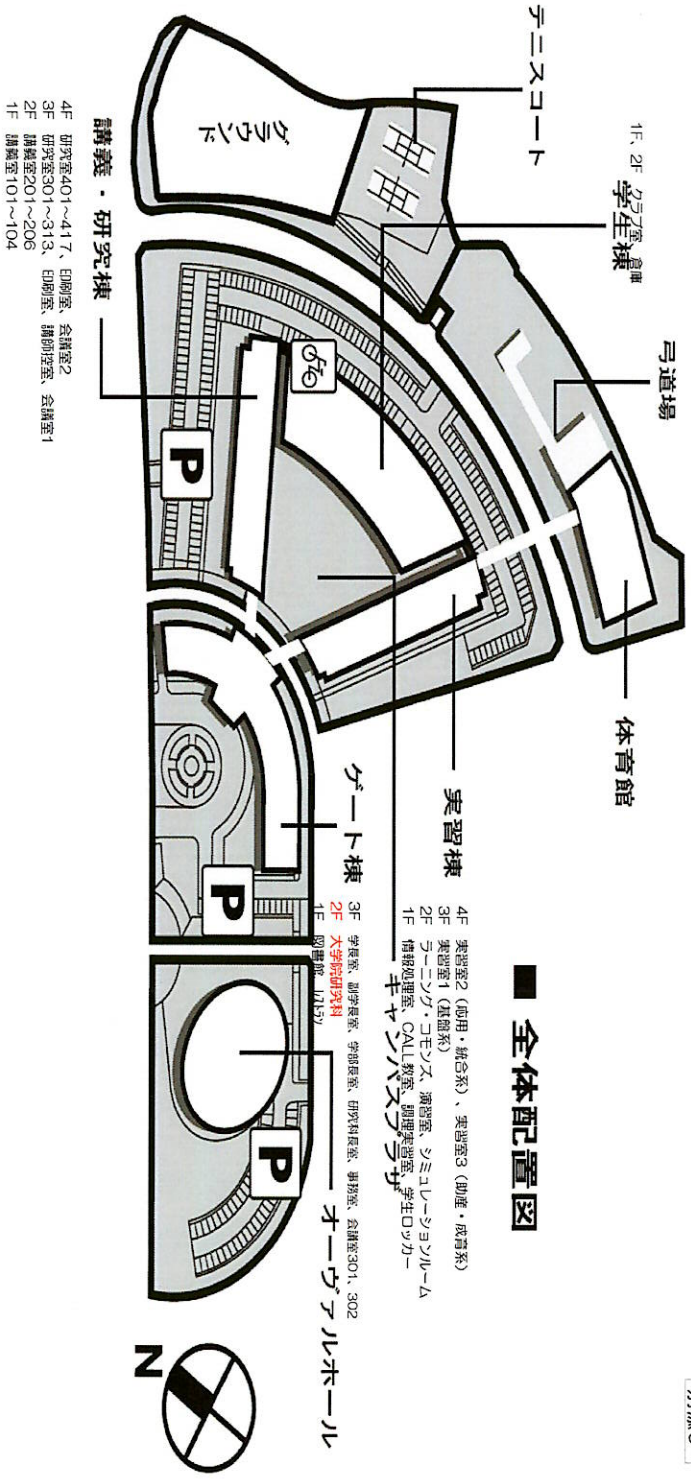
■ ゲート棟

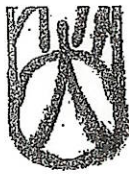


■ オーヴァルホール

■ 講義・研究棟







日本赤十字秋田短期大学収容定員関係学則変更届出書

日赤学第 171 号
平成29年6月22日

文部科学大臣 殿

学校法人 日本赤十字学園
理事長 大塚 義



このたび、日本赤十字秋田短期大学の収容定員に係る学則を変更することについて、学校教育法第4条第2項及び学校教育法施行令第23条の2第1項の規定により、別紙書類を添えて届け出ます。なお、届出の上は、確実に届出に係る計画を履行します。

大学院看護学研究科共同看護学専攻連絡協議会規程

平成27年10月5日制定

(目的)

第1条 この規程は、日本赤十字北海道看護大学、日本赤十字秋田看護大学、日本赤十字豊田看護大学、日本赤十字広島看護大学及び日本赤十字九州国際看護大学（以下「構成大学」という。）が、大学院設置基準（昭和49年6月20日文科省令第28号）第31条の規定に基づき設置する共同看護学専攻に係る教育、研究等に関する重要な事項を協議し、円滑な管理運営を行うために設置する共同看護学専攻連絡協議会（以下「連絡協議会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定める。

(構成)

第2条 連絡協議会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- (1) 専攻長
- (2) 各構成大学の研究科長
- (3) 各構成大学から選出された共同看護学専攻の専任教員 2名

(議長等)

第3条 連絡協議会に議長を置き、専攻長をもって充てる。

- 2 議長は、連絡協議会を招集し、連絡協議会の業務を掌理する。
- 3 連絡協議会に副議長1名を置き、議長が所属する大学以外の委員の互選により選出する。
- 4 副議長は議長を補佐し、議長に事故があるときは、その職務を代行する。
- 5 副議長の任期は、3年とする。

(協議事項)

第4条 連絡協議会は、共同看護学専攻に係る次の各号に掲げる事項を協議する。

- (1) 各構成大学において開設する授業科目及びこれに係る教員の配置など共同教育課程の編成及び実施に関する基本的事項
- (2) 研究指導教員の選定に関する事項
- (3) 入学者選抜の方針及び実施計画に関する事項
- (4) 学生の身分の取扱い及び厚生補導に関する事項
- (5) 成績評価の方針に関する事項
- (6) 学位審査委員会の設置に関する事項
- (7) 学位の授与及び課程修了の認定に関する事項
- (8) 教育研究活動等の状況の評価に関する事項
- (9) 予算に関する事項
- (10) 広報に関する事項
- (11) 自己点検・評価に関する事項

(12) FD・SDの推進に関する事項

(13) その他構成大学が必要と認めた事項

2 協議内容は、構成大学の研究科委員会に報告し、必要に応じて承認を得るものとする。

(議事及び運営)

第5条 連絡協議会は、各構成大学から1名以上の出席及び委員の半数以上の出席をもって成立する。

2 連絡協議会の議事は、出席委員の過半数の賛成をもって決し、可否同数のときは議長が決する。

3 連絡協議会が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

4 この規程に定めるもののほか、連絡協議会の議事及び運営について必要な事項は、連絡協議会が定める。

(事務局)

第6条 この規程に定める事務を取り扱うために事務局を置く。

2 事務局は、議長が所属する大学の事務局が担当する。

附 則

この規程は、平成27年10月5日から施行する。